

京都国立近代美術館
活動報告

令和2年度



WOMAK Report 2020

京都国立近代美術館 活動報告
令和2年度(2020)

目次

[展覧会／コレクション展]	
4	展覧会一覧表
12	令和2年度 展覧会一覧表
13	令和2年度 コレクション展記録
14	令和2年度 キュレトリアル・スタディズ
15	令和2年度 エデュケーショナル・スタディズ
16	令和2年度 展覧会記録
28	[作品の収集、保存、貸出]
	令和2年度 作品の収集、保存、貸出
42	[展覧会協力事業]
	令和2年度 展覧会協力事業
43	[普及・学習支援・出版事業]
43	令和2年度 普及・学習支援・出版事業
50	令和2年度 広報
51	[調査・研究]
	令和2年度 調査・研究
54	[名簿]
	評議員・職員

Contents

[Exhibitions / Collection Gallery]	
4	Table of Exhibitions
12	Table of Exhibitions 2020
13	Collection Gallery 2020
14	Curatorial Studies 2020
15	Educational Studies 2020
16	Exhibitions 2020
28	[New Acquisitions, Conservation, Loans from the MoMAK Collection]
	New Acquisitions, Conservation, Loans from the MoMAK Collection 2020
42	[Exhibition-related Cooperation]
	Exhibition-related Cooperation 2020
43	[Public, Learning Programs and Publications]
43	Public, Learning Programs and Publications 2020
50	Publicity 2020
51	[Research Activity]
	Research Activity 2020
54	[Nominal List]
	The Board of Trustees and Museum Staff

国立近代美術館京都分館

昭和38年度 [1963]

- 1 現代日本陶芸の展望ならびに現代絵画の動向
- 2 ビュッフェ展—その芸術の全貌
- 3 工芸における伝統と現代
現代絵画の動向—西洋と日本
- 4 村上華岳の芸術
- 5 工芸における手と機械
- 6 シャガール展
- 7 北大路魯山人の芸術
- 8 近代日本の洋画と工芸—明治・大正期
- 9 近代日本の洋画と工芸—昭和期

昭和39年度 [1964]

- 10 現代美術の動向—絵画と彫塑
- 11 児島善三郎遺作展
- 12 現代イギリス彫刻展
- 13 ピカソ展—その芸術の70年
- 14 浅井忠の芸術
- 15 現代日本の工芸
- 16 現代国際陶芸展
- 17 禅の美術
- 18 日本・カラー1964—現代写真代表作展
特別陳列：東京オリンピック報道写真
- 19 近代日本画の歩み

昭和40年度 [1965]

- 20 小出楯重展
- 21 世界の染織(1)—エジプトとベルシア
- 22 現代美術の動向
- 23 近代絵画の流れ
- 24 前衛絵画の先駆者たち
- 25 入江波光展
- 26 フォーブ展
- 27 具象絵画の新たな展開
- 28 戦後の油絵と版画
- 29 現代ヨーロッパのリビングアート

昭和41年度 [1966]

- 30 稲垣稔次郎展
- 31 現代美術の動向
- 32 岡田謙三展
併陳：近代日本の工芸
- 33 日本の近代絵画
- 34 富田溪仙展
- 35 ミロ展
- 36 現代アメリカ絵画展
- 37 第5回東京国際版画ビエンナーレ展
- 38 現代アメリカのリビングアート

昭和42年度 [1967]

- 39 近代日本の絵画(日本画)と工芸
- 40 近代日本の絵画(洋画)と工芸

京都国立近代美術館

昭和42年度 [1967]

- 41 近代日本画の名作
- 42 現代美術の動向
- 43 異色の近代画家たち
- 44 近代日本の工芸
- 45 現代イタリア美術展
- 46 勅使河原蒼風の彫刻
- 47 デュフィ展
- 48 現代陶芸の新世代

昭和43年度 [1968]

- 49 土田麦僊展
- 50 ボナール展
- 51 モジリアニ名作展
- 52 現代美術の動向
- 53 陶工河井寛次郎展
- 54 ロートレック展
- 55 第6回東京国際版画ビエンナーレ展
- 56 近代デザインの展望

昭和44年度 [1969]

- 57 山口薫回顧展
- 58 日本画の新人たち
- 59 菅井汲展
- 60 現代美術の動向
- 61 ゴーガン展
- 62 現代イギリス版画展
- 63 近代日本の工芸
- 64 東洋の染織

昭和45年度 [1970]

- 65 石黒宗麿回顧展
- 66 富本憲吉遺作展
- 67 現代美術の動向
- 68 現代の陶芸—ヨーロッパと日本
- 69 パーバラ・ヘップワース展
- 70 英国風景画展
- 71 エドワルド・ムンク展
- 72 第7回東京国際版画ビエンナーレ展

昭和46年度 [1971]

- 73 所蔵作品展
- 74 小合友之助・河合卯之助 二人展
- 75 近代日本の彫刻
- 76 ルネ・マグリット展
- 77 染織の新世代
- 78 現代の陶芸
—アメリカ・カナダ・メキシコと日本
- 79 現代ドイツ美術展

- 80 カルティエ=ブレッソン写真展
併陳：所蔵作品による近代日本の工芸

昭和47年度 [1972]

- 81 近代イタリア美術の巨匠たち
- 82 現代スウェーデン美術展
- 83 デューラーとドイツ・ルネッサンス展
- 84 現代美術の鳥瞰
- 85 ペーテル・ブリューゲル版画展
- 86 ヨーロッパの日本作家
- 87 ジェームズ・アンソール展
- 88 第8回東京国際版画ビエンナーレ展
- 89 シカゴ美術館浮世絵名品展

昭和48年度 [1973]

- 90 所蔵品による欧米の陶芸
併陳：新収作品の紹介
- 91 吉原治良展 明日を創った人
- 92 現代工芸の鳥瞰
- 93 グラフィック・イメージ '73
- 94 アメリカの日本作家
- 95 近代日本美術史におけるパリと日本
- 96 キリシタン美術の再発見
—西洋と日本の出会い
- 97 デ・キリコによるデ・キリコ展

昭和49年度 [1974]

- 98 ダダの女流画家
ハンナ・ヘッヒの芸術
- 99 アンドリュウ・ワイエス展
- 100 グラフィック・イメージ '74
(ワード+イメージ)
- 101 沖縄の工芸
- 102 現代メキシコ美術展
- 103 第9回東京国際版画ビエンナーレ展

昭和50年度 [1975]

- 104 現代衣服の源流展
- 105 ポール・デルポー展
- 106 異色の水墨画家
—野沢如洋・泥谷文景・小川千壺
- 107 香月泰男遺作展
- 108 フランス工芸の美
—15世紀から18世紀のタピスリー
- 109 シュルレアリスム展
- 110 ポール・デービス展
- 111 ソ連寄贈福田平八郎作品展
併陳：近代の日本画
—所蔵作品による—

昭和51年度 [1976]

- 112 ドイツ・リアリズム 1919—1933
ドイツ民主共和国所蔵 絵画・彫刻・版画
- 113 ドイツの現代陶芸
- 114 アメリカのキルト
- 115 異色の水墨画家
—水越松南・山口八九子・楠瓊州
- 116 今日の造形(織)—ヨーロッパと日本
- 117 キュービズム展
- 118 オランダ国立ヴァン・ゴッホ美術館所蔵 ヴァン・ゴッホ展
- 119 第10回東京国際版画ビエンナーレ展

昭和52年度 [1977]

- 120 イタリア古版画展
—15世紀から18世紀—
併陳：近代日本の版画—所蔵作品より
- 121 金鈴社の画家たち
—錦木清方、吉川靈華、平福百穂、
松岡映丘、結城素明
- 122 「第九の怒濤」を中心とするロシア美術館名作展
併陳：ソ連政府寄贈福田平八郎作品展
—絵画・版画・工芸—
- 123 近代の日本画—所蔵作品より—
- 124 現代美術の鳥瞰
—明日を探る作家たち—
- 125 今日の造形(織)—アメリカと日本
- 126 フォンタネージ、ラグーザと明治前期の美術
- 127 ピカソ展
- 128 牛島憲之の芸術
—50年の歩み その静温な風景詩—

昭和53年度 [1978]

- 129 オスカー・ココシュカ展
- 130 没後50年記念 佐伯祐三展
- 131 世界の現代画家50人展
—サザerlandからフォロンまで—
- 132 現代日本の工芸
- 133 ヨーロッパのポスター：
その源流から現代まで—
- 134 世界の現代工芸
—スキャンディナヴィアの工芸—
- 135 新収作品を中心とする所蔵作品展
—絵画・版画・彫刻—
- 136 安井曾太郎展 京都が生んだ洋画の巨匠

昭和54年度 [1979]

- 137 ソ連邦所蔵のフランス近代絵画展
—ブーシキン、エルミターージュ両美術館から—
- 138 没後50年 岸田劉生展
- 139 異色の水墨画家
—西晴雲・近藤浩一路・山下摩起
- 140 天野博物館所蔵品によるプレ・インカの染織
- 141 フランス絵画の巨匠たち
—ボストン美術館秘蔵展—
コローからブラックまで
- 142 速水御舟の芸術展 写実と幻想の天才画家

昭和55年度 [1980]

- 143 浪漫衣裳展「洋装事始」をうながした西欧の波
- 144 銅版画の巨匠 長谷川潔展
- 145 現代ガラスの美
—ヨーロッパと日本—
- 146 ボンビドゥ・センター／
20世紀の美術
- 147 新収作品を中心とする所蔵作品展
—絵画・版画・工芸—
- 148 イタリア・ルネッサンス美術展
- 149 八木一夫展

昭和56年度 [1981]

- 150 須田国太郎展
- 151 マチス展
- 152 異色の水墨画家
—日高昌克・井上石郵・董牛人—
- 153 現代ガラスの美
—オーストラリア・カナダ・アメリカと日本—
- 154 モーリス・ドニ展
- 155 所蔵作品展—近代の絵画
- 156 1960年代—現代美術の転換期

昭和57年度 [1982]

- 157 ザオ・ウーキー展 油彩と墨絵
- 158 坂本繁二郎展
- 159 菊池契月展
- 160 アメリカに学んだ日本の画家たち
国吉・清水・石垣・野田とアメリカン・シーン絵画
- 161 イギリスのニードルワーク
- 162 モネ展
- 163 新しい紙の美術—アメリカ

展覧会一覧表

Table of Exhibitions

<p>昭和58年度 [1983]</p> <p>164 榊原紫峰展</p> <p>165 河井寛次郎展</p> <p>166 現代彫刻の異才 辻智堂展</p> <p>167 フランス・ペーコン展</p> <p>168 ニューヨーク近代美術館所蔵品による20世紀アメリカのポスター</p> <p>169 現代美術における写真 —1970年代の美術を中心として—</p>	<p>190 現代イタリア陶芸の4巨匠展</p> <p>191 ジェリコ展</p> <p>192 ヤン・グロート展</p>	<p>平成3年度 [1991]</p> <p>222 フランク・ロイド・ライト回顧展</p> <p>223 生誕100年記念 長谷川潔展</p> <p>224 ロバート・ヴェンチューリ&スコット・ブラウン展 —建築とデコラティブ・アート—</p> <p>225 フィレンツェ・ルネサンス芸術と修復</p> <p>226 野島康三とその周辺 日本近代写真と絵画の一断面</p> <p>227 京都の未来像 建築展</p> <p>228 大英博物館所蔵品によるアフリカの染織</p> <p>229 金田和郎回顧展</p> <p>230 荒川修作の実験展 —見る者がつくられる場—</p> <p>231 ゴッホと日本展</p>	<p>252 ヴィクトリア&アルバート美術館展 英国のモダン・デザイン —インテリアにみる伝統と革新—</p> <p>253 ブルーノ・タウト展 近代建築のあけぼの／宇宙建築師の夢</p> <p>254 日本の美—伝統と近代</p> <p>255 写実の系譜Ⅳ：『絵画』の成熟 —1930年代の日本画と洋画—</p> <p>256 京を描く—近代日本画に見る京都—</p> <p>257 ピーター・ヴォーコス展</p>	<p>277 写真の誕生から現代まで —館所蔵世界の近代写真 I—</p> <p>278 漂流教室：イメージの図書館から —18人の中学生が創る18の展覧会—</p> <p>279 土田麦僊展 日本画の偉才 —清雅なる理想美の世界—</p> <p>280 文人画の近代 —鉄斎とその師友たち展—</p> <p>281 村岡三郎展 熱の彫刻 —物質と生命の根源を求めて—</p> <p>282 生誕100年記念 豊田勝秋展</p> <p>283 新収蔵品展 1993～1997</p>	<p>マイ・ポートレート</p> <p>306 ルネ・ラリック 1860—1945展</p>
<p>昭和59年度 [1984]</p> <p>170 京都国立近代美術館所蔵 —近代洋画名作展—</p> <p>171 バルチュス展</p> <p>172 今日のジュエリー —世界の動向—</p> <p>173 現代美術への視点 —メタファーとシンボル展—</p>	<p>昭和63年度 [1988]</p> <p>193 北大路魯山人展</p> <p>194 ファイバーアートの新領域(フロンティア) —アメリカ—</p> <p>195 梅原龍三郎遺作展</p> <p>196 1986、87年度新収作品展</p> <p>197 つながれた形の間に—飯田善國展—</p> <p>198 現代イギリスの工芸</p> <p>199 写実の系譜Ⅲ —明治中期の洋画—</p> <p>200 萩須高德遺作展</p> <p>201 大きな井上有一展</p>	<p>平成4年度 [1992]</p> <p>232 在米35年 孤高の軌跡 川端美展</p> <p>233 イサム・ノグチ展</p> <p>234 オーストラリア絵画の200年 —自然・人間・芸術—</p> <p>235 アボリジニの美術 伝承と創造／ オーストラリア大地の夢</p> <p>236 フランク・O・ゲーリー展 —建築と家具—</p> <p>237 現代美術への視点 形象のはざまに</p> <p>238 フォーヴィズムと日本近代洋画</p> <p>239 京都国立近代美術館創立30周年 記念展 I：世界の工芸—所蔵作品 による—</p>	<p>平成7年度 [1995]</p> <p>258 クロッシング・スピリッツ カナダ現代美術展 1980—94</p> <p>259 神秘の顕現 ギュスターヴ・モロー展</p> <p>260 思索する色とかたち 作陶50年 タカエズ・トシコ展</p> <p>261 情熱の画家・フォーヴの旗手 生誕100年記念 里見勝蔵展</p> <p>262 ドナウの夢と追憶 ハンガリーの建築 と応用美術 1896—1916</p> <p>263 ピカソ 愛と苦悩 —「ゲルニカ」への道—</p> <p>264 現代美術への視点 —絵画、唯一なるもの—</p>	<p>平成10年度 [1998]</p> <p>284 没後90年記念 浅井忠展</p> <p>285 森村泰昌 [空装美術館] —絵画になった私—</p> <p>286 テキスタイルの発言：イギリスの今日</p> <p>287 生誕100年記念 岡鹿之助展</p> <p>288 京都の工芸 [1910—1940] —伝統と変革のはざまに—</p> <p>289 土谷武展 しなやかな造形、生成するかたち</p> <p>290 ムンク版画展</p>	<p>平成13年度 [2001]</p> <p>307 前田青邨展</p> <p>308 ミニマルマキシマル —ミニマル・アートとその展開 1990年代の現代美術—</p> <p>309 京都の工芸 [1945—2000]</p> <p>310 オーストリア・デザインの現在 —広がるデザインの世界—</p> <p>311 生誕100年記念 小松均展</p> <p>312 シェナ美術展 —絵画・彫刻・工芸の精華—</p> <p>313 銅版画の巨匠 長谷川潔展</p>
<p>昭和60年度 [1985]</p> <p>174 京都国立近代美術館所蔵 —近代洋画名作展—</p> <p>175 マチス、ミロ、ピカソら巨匠による近代の挿絵 併陳：フィラデルフィア美術館所蔵 の版画24点による見えない敵—伝 染病—</p> <p>176 現代デザインの展望 —ポストモダンの地平から—</p> <p>177 写実の系譜 I—洋風表現の導入： 江戸中期から明治初期まで—</p>	<p>平成元年度 [1989]</p> <p>202 華麗な革命 —ロココと新古典の衣裳—</p> <p>203 くるまからバスタまで ジウジアーロ・デザインの世界</p> <p>204 ル・サロン(1667—1881)の巨匠たち フランス絵画の精華</p> <p>205 現代デザインの水脈： ウルム造形大学展 ヴァチカン美術館特別展 —古代ギリシャからルネサンス、 バロックまで—</p> <p>206 美の旅人 池田逸邨遺作展 能弁なオブジェ —現代アメリカ工芸の展開—</p> <p>207 ファイバーアートの先駆者 —高木敏子遺作展—</p> <p>210 現代美術への視点 —色彩とモノクローム—</p> <p>211 生誕100年記念 ニューヨークの憂愁 国吉康雄展</p>	<p>平成5年度 [1993]</p> <p>240 京都国立近代美術館創立30周年 記念展 II：近代の美術 —所蔵作品による—</p> <p>241 ゴーガンとポン＝タヴァン派展</p> <p>242 賈又福中国画展 東洋画の新星</p> <p>243 谷角日沙春展</p> <p>244 アンゼラム・キーファー展 メランコリア—知の翼—</p> <p>245 京の記憶／ スティーヴン・ファージング展</p> <p>246 国画創作協会回顧展</p> <p>247 柳原義達展</p> <p>248 オーストラリアのジュエリー展</p> <p>249 ルフィノ・タマヨ展</p>	<p>平成8年度 [1996]</p> <p>265 生誕100年記念 徳岡神泉展</p> <p>266 リチャード・ロング展 山行水行</p> <p>267 身体と表現 1920—1980 ポンピ ドゥー・センター所蔵作品から</p> <p>268 増殖するイメージ 小牧源太郎遺作展</p> <p>269 テキスタイルの冒険—現代オランダ の4人のアーティスト—</p> <p>270 プロジェクト・フォー・サバイバル 1970年以降の現代美術再訪： プロジェクト [意志的・投機的] な実践の再発見に向けて</p> <p>271 結成100年記念 白馬会 —明治洋画の新風—</p> <p>272 大正日本画の異才 —いきづく情念 甲斐庄楠音展—</p> <p>273 北脇昇展 —理知と幻想のシュルレアリスト—</p> <p>274 モダンデザインの父 —ウィリアム・モリス—</p>	<p>平成11年度 [1999]</p> <p>291 身体の夢 ファッションOR見えないコルセット</p> <p>292 生誕110年・没後20年記念展 小野竹喬</p> <p>293 倉俣史朗の世界</p> <p>294 京都新聞社創刊120年記念展 近代京都画壇と「西洋」 —日本画革新の旗手たち—</p> <p>295 エディンバラの工芸</p> <p>296 パリ オランジュリー美術館展 ジャン・ヴァルテル&ポール・ギョーム コレクション</p> <p>297 日本の前衛 Art into Life 1900—1940</p> <p>298 所蔵品でたどる 新しい造形表現 —1960年から今日まで—</p> <p>299 顔 絵画を突き動かすもの</p>	<p>平成14年度 [2002]</p> <p>314 日本画への招待—人・花・風景—</p> <p>315 カンディンスキー展 抽象絵画への道 1896—1921</p> <p>316 アメリカ現代陶芸の系譜 1950—1990 自由の国のオブジェとうつわ</p> <p>317 スーラと新印象派 —光と点描の画家たち—</p> <p>318 クッションから都市計画まで —ヘルマン・ムテジウスとドイツ工作 連盟：ドイツ近代デザインの諸相 1900—1927—</p> <p>319 ウィーン美術史美術館名品展 —ルネサンスからバロックへ—</p>
<p>昭和61年度 [1986]</p> <p>178 新館開館記念特別展： 京都の日本画1910～1930 大正のこころ・革新と創造</p> <p>179 写実の系譜 II—大正期の細密描写</p> <p>180 レンブラント・巨匠とその周辺</p> <p>181 山口華揚・六代清水六兵衛遺作展</p>	<p>平成2年度 [1990]</p> <p>212 モランディ展</p> <p>213 スペイン現代陶芸展</p> <p>214 高橋秀展 エロス・極限の赤と黒</p> <p>215 ブラハ国立美術館所蔵 ブリュッゲ ルとネーデルランド風景画展</p> <p>216 イメージ&オブジェクト日本展</p> <p>217 移行するイメージ： 1980年代の映像表現</p> <p>218 写真の過去と現在</p> <p>219 現代美術の神話 —ソナベント・コレ クション ネオ・ダダからネオ・ジオまで—</p> <p>220 小磯良平遺作展</p> <p>221 没後50年 鹿子木孟郎展</p>	<p>平成6年度 [1994]</p> <p>250 モードのジャポニスム展 —キモノから生まれたゆとりの美—</p> <p>251 イスラエルの工芸展</p>	<p>平成9年度 [1997]</p> <p>275 ドイツ現代写真展《遠・近》 —ベルント&ヒラ・ベッヒャーとその 弟子たち—</p> <p>276 宿命の画家—土着と前衛のはざま に—萬鐵五郎展</p>	<p>平成12年度 [2000]</p> <p>300 麻田鷹司展</p> <p>301 粟辻博展 色彩と空間のテキスタイル</p> <p>302 STILL\MOVING： 境界上のイメージ—現代オランダの 写真、フィルム、ビデオ—</p> <p>303 没後70年記念 小出権重展</p> <p>304 万国博覧会と近代陶芸の黎明</p> <p>305 トーマス・シュトゥルルト：</p>	<p>平成15年度 [2003]</p> <p>320 知られざる西アフリカの美術 富と権力、王国2000年の歴史</p> <p>321 東松照明の写真 1972—2002</p> <p>322 韓国国立中央博物館所蔵 日本近代美術展</p> <p>323 横尾 by ヨコオ：描くことの悦楽 —イメージの遍歴と再生—</p> <p>324 神坂雪佳展—琳派の継承・近代デ ザインの先駆者—</p> <p>325 オーストラリア現代工芸3人展： 未知のかたちを求めて</p> <p>326 ヨハネス・イッテン —造形芸術への道—</p> <p>327 デカダンスから光明へ 異端画家・ 秦テルヲの軌跡—そして竹久夢二・ 野長瀬晩花・戸張孤雁…</p> <p>328 京都国立近代美術館コレクション から 日本洋画の130年—見つめ、 感じ、表現する画家たち—</p> <p>329 彫刻家：堀内正和の世界展</p>

平成16年度 [2004]

- 330 COLORS ファッションと色彩
VICTOR®ROLF®KCI
- 331 近代日本画壇の巨匠 横山大観展
- 332 ブラジル:ポディ・ノスタルジア
- 333 没後25年 八木一夫展
—現代陶芸の異才—
- 334 ジャパニーズモダン
—剣持勇とその世界展—
- 335 痕跡—戦後美術における身体と思考
- 336 草間彌生展—永遠の現在
- 337 京都国立近代美術館所蔵
—川勝コレクションの名品
河井寛次郎展

平成17年度 [2005]

- 338 村上華岳展
- 339 through the surface: 表現を通して
—現代テキスタイルの日英交流—
- 340 20世紀陶芸界の鬼才
加守田章二展
- 341 近代日本画の名匠 小林古径展
- 342 堂本尚郎展
- 343 須田国太郎展
- 344 ドイツ写真の現在 —かわりゆく「現
実」と向かいあうために—
- 345 ドイツ表現主義の彫刻家
エルンスト・バルラハ

平成18年度 [2006]

- 346 人と自然:ある芸術家の理想と挑戦
フンデルトヴァッサー展
- 347 生誕120年 藤田嗣治展:
パリを魅了した異邦人
- 348 生誕120年 富本憲吉展
- 349 プライスコレクション
若沖と江戸絵画展
- 350 都路華香展
- 351 揺らぐ近代
日本画と洋画のはざまに
- 352 アール・デコ・ジュエリーの世界
輝きの詩人シャルル・ジャコ、ブ
シュロン、ラリックらの宝飾デザイン

平成19年度 [2007]

- 353 ノイズレス:
鈴木昭男 + ロルフ・ユリウス
- 354 福田平八郎展
- 355 舞台芸術の世界 ディアギレフの
ロシアバレエと舞台デザイン
- 356 シビル・ハイネン:
テキスタイル・アートの彼方へ
- 357 没後10年 麻田 浩展

- 358 文承根 + 八木正 1973-83の仕事
- 359 カルロ・ザウリ展
イタリア現代陶芸の巨匠
- 360 新収作品展
—寄贈されたM&Yコレクション
池田満寿夫の版画—
- 361 玉村方久斗展
- 362 ドイツ・ポスター 1890-1933

平成20年度 [2008]

- 363 生誕100年記念 秋野不矩展
- 364 ART RULES KYOTO 2008
- 365 ルノワール+ルノワール展
- 366 「日本画」再考への序章
没後10年 下村良之介展
- 367 没後30年 W. ユージン・スミスの写真
- 368 生活と芸術—アーツ&クラフツ展
ウィリアム・モリスから民芸まで
- 369 現代美術への視点
—エモーショナル・ドローイング—
- 370 上野伊三郎+リチ コレクション展
ウィーンから京都へ、建築から工芸へ
- 371 椿昇 2004-2009:
GOLD/WHITE/BLACK

平成21年度 [2009]

- 372 ラグジュアリー:ファッションの欲望
- 373 京都新聞創刊130年記念
京都学「前衛都市・モダニズムの京
都」1895-1930
- 374 東京国立近代美術館フィルムセン
ター所蔵《袋一平コレクション》より
無声時代ソビエト映画ポスター展
- 375 生誕120年 野島康三 ある写真家
が見た日本近代
- 376 ウィリアム・ケントリッジ
—歩きながら歴史を考える そしてド
ローイングは動き始めた……—
- 377 ボルゲーゼ美術館展
- 378 マイ・フェイバリット—とある美術の
検索目録/所蔵作品から—

平成22年度 [2010]

- 379 稲垣伸静・稔次郎兄弟展
- 380 ローマ追想—19世紀写真と旅
- 381 Trouble in Paradise/
生存のエシックス
- 382 「日本画」の前衛 1938-1949
- 383 上村松園展
- 384 麻生三郎展
- 385 パウル・クレー
—おわらないアトリエ—

平成23年度 [2011]

- 386 没後100年 青木繁展
—よみがえる神話と芸術—
- 387 視覚の実験室 モホイ=ナジ/
イン・モーション
- 388 「織」を極める
—人間国宝 北村武資—
- 389 川西英コレクション収蔵記念展
夢ことともに

平成24年度 [2012]

- 390 すべての僕が沸騰する
—村山知義の宇宙—
- 391 井田照一の版画
- 392 KATAGAMI Style
—もうひとつのジャポニスム—
- 393 近代洋画の開拓者 高橋由一
- 394 日本の映画ポスター芸術
- 395 山口華楊展
- 396 開館50周年記念特別展
交差する表現 工芸/デザイン/
総合芸術

平成25年度 [2013]

- 397 芝川照吉コレクション展~
青木繁・岸田劉生らを支えたコレク
ター
- 398 泥象 鈴木治の世界—「使う陶」から
「観る陶」、そして「詠む陶」へ—
- 399 映画をめぐる美術
—マルセル・ブロータースから始める—
- 400 皇室の名品—近代日本美術の粹
- 401 Future Beauty 日本ファッション:
不連続の連続
- 402 チェコの映画ポスター
テリー・ポスター・コレクションより

平成26年度 [2014]

- 403 上村松篁展
- 404 うるしの近代
—京都、「工芸」前夜から—
- 405 ホイッスラー展
- 406 現代美術のハードコアはじつは世
界の宝である展
ヤゲオ財団コレクションより

平成27年度 [2015]

- 407 ポスターにみる
ミュージカル映画の世界
- 408 ユネスコ無形文化遺産登録記念
北大路魯山人の美 和食の天才
- 409 現代陶芸の鬼才 栗木達介展
- 410 琳派400年記念「琳派イメージ」展

- 411 文化勲章受章記念 志村ふくみ
—母衣への回帰—

平成28年度 [2016]

- 412 オーダーメイド:それぞれの展覧会
- 413 キューバの映画ポスター
竹尾ポスターコレクションより
- 414 ポール・スミス展 HELLO, MY
NAME IS PAUL SMITH
- 415 あの時みんな熱かった!
アンフォルメルと日本の美術
- 416 メアリー・カサット展
- 417 茶碗の中の宇宙
樂家—子相伝の芸術—
- 418 endless 山田正亮の絵画

平成29年度 [2017]

- 419 戦後ドイツの映画ポスター
- 420 技を極める
—ヴァン クリーフ&アーペル
ハイジュエリーと日本の工芸—
- 421 絹谷幸二 色彩とイメージの旅
- 422 岡本神草の時代
- 423 ゴッホ展 巡りゆく日本の夢
- 424 明治150年展 明治の日本画と工芸

平成30年度 [2018]

- 425 生誕150年 横山大観展
- 426 バウハウスへの応答
- 427 生誕110年 東山魁夷展
- 428 没後50年 藤田嗣治展
- 429 世紀末ウィーンのグラフィック
デザインそして生活の刷新にむけて
- 430 京都の染織
1960年代から今日まで

平成31年度/令和元年度 [2019]

- 431 京都新聞創刊140年記念
川勝コレクション 鐘溪窯
陶工・河井寛次郎
- 432 トルコ文化年2019
トルコ至宝展 チューリップの宮殿
トプカプの美
- 433 ドレス・コード?
—着る人たちのゲーム—
- 434 円山応挙から近代京都画壇へ
- 435 記憶と空間の造形
イタリア現代陶芸の巨匠
ニーノ・カルーソ

令和2年度 [2020]

- 436 チェコ・デザイン 100年の旅

令和2年度 展覧会

Exhibitions 2020

令和2年度 展覧会一覧表

Table of Exhibitions 2020

回数	展覧会名	会期	開催日数	入場者数		備考
				総数	1日平均	
436	チェコ・デザイン 100年の旅	[3.6] 4.1～7.5	36	11,899	331	共催：読売新聞社、 チェコ国立プラハ工芸美術館
437	日本・ポーランド国交樹立 100周年記念 ポーランドの映画ポスター	[3.17] 4.1～7.12	(42)	(11,582)	(276)	共催：国立映画アーカイブ ※4Fコレクション・ギャラリー内で 開催したため、開催日数、入場者 数は合計に含まない。
438	京都国立近代美術館所蔵作品にみる 京のくらし——二十四節気を愉しむ	7.23～9.22	54	13,082	242	特別展 共催：NHK京都放送局、 KBS京都、京都新聞
439	人間国宝 森口邦彦 友禅／デザイン —交差する自由へのまなざし	10.13～12.6	48	12,706	265	共催：文化庁、独立行政法人日本 芸術文化振興会、 日本経済新聞社、京都新聞
440	分離派建築会100年 建築は芸術か？	R3.1.6～3.7	53	12,999	245	共催：朝日新聞社
合計	延べ		191	50,686	265	[]は展覧会開幕日、参考として 記載。
コレクション展(全4回)		4.1～R3.3.7	241	47,890		コレクション展のみの入館者数： 12,663
総計	延べ					

※新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い、感染予防・拡散防止のために令和2年2月29日(土)～5月25日(月)まで臨時休館。この影響により「チェコ・デザイン100年の旅」展(当初会期：令和2年3月6日(金)～5月10日(日))、「日本・ポーランド国交樹立100周年記念 ポーランドの映画ポスター」展(当初会期：令和2年3月17日(火)～5月10日(日))、「京都国立近代美術館所蔵作品にみる 京のくらし——二十四節気を愉しむ」展(当初会期：7月28日(火)～9月22日(火))、「人間国宝 森口邦彦 友禅／デザイン—交差する自由へのまなざし」展(当初会期：5月23日(土)～7月12日(日))は会期を変更し、「チェコ・デザイン100年の旅」展は7月5日(日)まで、「日本・ポーランド国交樹立100周年記念 ポーランドの映画ポスター」展は7月12日(日)まで、「京都国立近代美術館所蔵作品にみる 京のくらし——二十四節気を愉しむ」展は7月23日(日)から、「人間国宝 森口邦彦 友禅／デザイン—交差する自由へのまなざし」展は10月13日(火)～12月6日(日)までの開催となった。

コレクション展 Collection Gallery

当館所蔵の日本画、洋画、版画、彫刻および陶芸、染織、金工、木竹工、漆工、ジュエリーなどの工芸、写真などの中から適宜作品を選択して紹介。年間約5回の展示替により、日本の近代美術の大きな流れの中の代表作や記念的な作品をおりまぜて展示するとともに、欧米の近・現代の作品もあわせて展示し、エデュケーション・スタディズを含む、以下のようなテーマ展示を行った。

令和2年度 コレクション展記録

Collection Gallery 2020

第1回コレクション展

令和2年3月4日(水)～7月19日(日)、計193点
(新型コロナウイルス感染症の影響により3月4日(水)～5月25日(月)臨時休館)

- ・ 生誕130年記念 山口八九子
- ・ ヨーロッパの工芸
- ・ 川勝コレクション 河井寛次郎作品選
- ・ 画中の模様【展示替え：1点】
- ・ キュレトリアル・スタディズ13：チェコ・ブックデザインの実験場 1920s-1930s
大阪中之島美術館のコレクションより
【キュレトリアル・スタディズ】の項目を参照

第4回コレクション展

令和2年12月24日(木)～令和3年3月7日(日)、計97点

- ・ 西洋近代美術作品選
- ・ 描かれた建物
- ・ エデュケーション・スタディズ02：中村裕太 ツボノナカハナンドロナ？
【エデュケーション・スタディズ】の項目を参照
- ・ 北大路魯山人、八木一夫、清水卯一 —石黒宗磨とのつながりの中で—
- ・ モダニズムの日本工芸
- ・ 十亀広太郎と関西の「色彩派」
- ・ 特集：三島喜美代

第2回コレクション展

前期：令和2年7月22日(水)～8月23日(日)／
後期：8月25日(火)～10月4日(日)、計185点
【前期：179点、後期：179点(展示替え：6点)】

- ・ 西洋近代美術作品選
- ・ 屏風祭
- ・ #Stay Connected つながるための場所
【展示期間：令和2年7月15日(水)～10月4日(日)】
- ・ 近代工芸の吉祥文
- ・ 特集：樂直入(十五代吉左衛門)の『シリーズ盤 大地に眠る精霊たち』
- ・ 京の風景
- ・ 東松照明「京まんだら」

第3回コレクション展

前期：令和2年10月8日(木)～11月23日(月・祝)／
後期：11月25日(水)～12月20日(日)、計151点
【前期：147点、後期：147点(展示替え：4点)】

- ・ 西洋近代美術作品選
- ・ パンリアル美術協会解散によせて
- ・ なぜ芸術家はフランスを目指すのか？
- ・ 模様の美
- ・ 川勝コレクション 河井寛次郎作品選
- ・ 須田国太郎の周辺
- ・ キュレトリアル・スタディズ14：
須田国太郎 写真と真理の思索
【キュレトリアル・スタディズ】の項目を参照

「チェコ・デザイン 100年の旅」の開催にあわせ、「2020年度第1回コレクション展」の一角にて、大阪中之島美術館に所蔵される1920年代から30年代にかけてのチェコの書籍121冊をもとに、主に6人の作家を主軸にしてチェコのブックデザインを紹介した。また、「2020年度第3回コレクション展」の一角にて、京都洋画壇を代表する巨匠、須田国太郎の思想の一部を振り返りながら、そのユニークな画業の流れを当館コレクションによって紹介した。

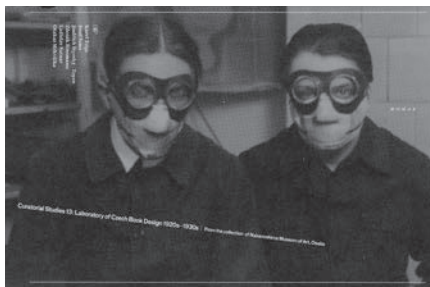
キュレトリアル・スタディズ13：
チェコ・ブックデザインの実験場
 1920s-1930s 大阪中之島美術館のコレクションより
 令和2年3月4日(水)～7月12日(日)、計92点
 (新型コロナウイルス感染症の影響により3月4日(水)～5月25日(月)臨時休館)
 特別協力：大阪中之島美術館
 研究協力：ヘレナ・チャプコヴァー(立命館大学准教授)



会場風景(撮影：河田憲政)

小冊子
 Brochure

「キュレトリアル・スタディズ13：
 チェコ・ブックデザインの実験場 1920s-1930s」
 日本語：25.7 cm×17.2 cm、約43頁
 図版 カラー47点、モノクロ22点、無料配布
 企画：本橋仁(京都国立近代美術館)
 協力：ヘレナ・チャプコヴァー
 印刷：日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社



デザイン：西村祐一(Rimishuna)

キュレトリアル・スタディズ14：
須田国太郎 写実と真理の思索
 令和2年10月8日(木)～12月20日(日)、
 計32点(展示替え：4点)
 共催：一般財団法人きょうと視覚文化振興財団



チラシデザイン：大向デザイン事務所(吉澤七海)



会場風景(撮影：河田憲政)

小冊子
 Brochure

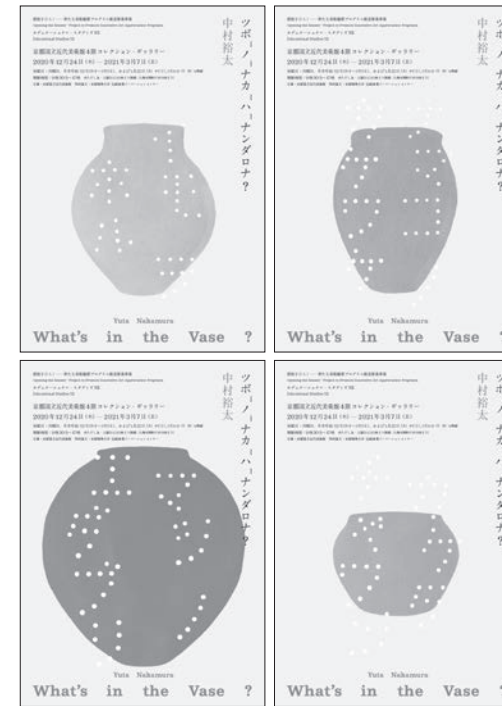
「キュレトリアル・スタディズ14：
 須田国太郎 写実と真理の思索」
 日本語：14.8 cm×22.0 cm、約8頁
 図版 カラー32点、無料配布
 企画：梶岡秀一(京都国立近代美術館)
 印刷：野崎印刷紙業株式会社



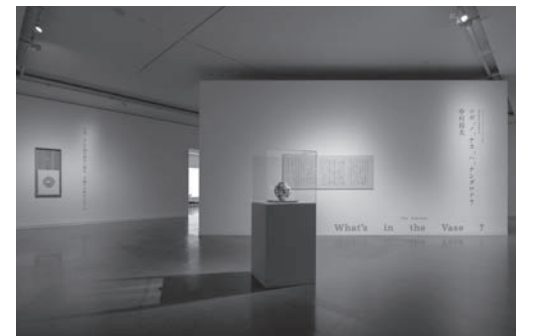
デザイン：吉澤七海(大向デザイン事務所)

「感覚をひらく」事業では2020年度より、作家(Artist)、視覚障害のある方(Blind)、学芸員(Curator)がそれぞれの専門性や感性を生かし、さまざまな感覚をつかう鑑賞プログラムを開発する「ABCプロジェクト」を行っている。今回は「2020年度第4回コレクション展」の一角にて、当館所蔵の石黒宗磨《壺「晩秋」》の新たな鑑賞方法を探る展示を行った。

感覚をひらく
 ー新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業
エデュケーショナル・スタディズ02：
中村裕太 ツボノナカハナンドロナ?
 令和2年12月24日(木)～令和3年3月7日(日)、計8点
 特別協力：京都精華大学 伝統産業イノベーションセンター
 助成：令和2年度文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業



チラシデザイン：Studio Kentaro Nakamura



会場風景(撮影：表恒匡)

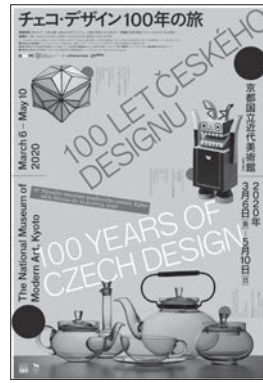


チェコ・デザイン100年の旅

100 Years of Czech Design

主催：京都国立近代美術館、読売新聞社、チェコ国立プラハ工芸美術館
 後援：駐日チェコ共和国大使館、チェコセンター東京
 協賛：ルフハンザカーゴAG 企画協力：株式会社イデップ
 会期：2020年3月6日(金)～7月5日(日) (36日間)※
 入場者数：11,899人(一日平均：331人)
 ※新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のための臨時休館により、当初会期2020年3月6日～5月10日が上記の通り変更となった。5月25日まで臨時休館のため、実際の会期は5月26日～7月5日。

Organizer: The National Museum of Modern Art, Kyoto; The Yomiuri Shimbun; Museum of Decorative Arts in Prague
 Support: Embassy of the Czech Republic, Czech Center Tokyo
 Sponsorship: Lufthansa Cargo AG Planned and Coordinated: I.D.F. Inc.
 Dates: Friday, March 6 - Sunday, July 5, 2020
 Visitors: 11,899 (331 per day)
 *Due to the temporary closure against the COVID-19 Pandemic, the original exhibition date, March 6 - May 10, 2020, had to be changed. Since the museum was temporarily closed until May 25, the actual exhibition period is May 26 - July 5.



ポスターデザイン：西村祐一(Rimishuna)

1900年から現代にいたる100年間のチェコにおける「デザイン」を、時系列に沿って230点の作品により紹介した。これまでチェコを扱う展覧会の多くは、アルフォンス・ミュシャの作品や、アニメーションあるいは玩具などが主たるテーマとなってきた。本展では、そうしたこれまでの展覧会とは異なり、現代にいたる100年のいずれの時代も等価に扱い、チェコのデザインを紹介していった。社会の変化とデザインの紹介に焦点があてられ、作家性を押し出すことはせず、むしろグラフィックから工芸、家具といった作品種別を横断することが目指された。

それにより、これまで国内ではあまり紹介の機会がなかったチェコ・キュビズムといった独自の様式や、第二次大戦下のデザイン、さらには戦後チェコスロヴァキア時代の日用品など、それまでのチェコデザインのイメージを刷新するような、より包括的なチェコの歴史を紹介する機会となった。激しい社会の変化を受け、国家体制をも変えることとなった20世紀のチェコにおいて、その変化はデザイナーの制作環境にも影響を与え、それが各時代のデザインの様相に反映されている。こうした事情はなにもチェコに限ったことでない。そうした、社会とデザインとの関係に考えさせられる展覧会となった。

なお、本展は当館での開催を挟み、岡崎市美術博物館(2019年4月6日～5月19日)、富山県美術館(2019年6月1日～7月28日)、世田谷美術館(2019

Over a hundred years of Czech design, from 1900 to the present day, was explored through 230 works displayed in chronological order. Thus far many exhibitions of works from the Czech Republic have focused on the art of Alphonse Mucha, or on animation or toy design, but unlike previous exhibitions, here Czech design was presented comprehensively with each of the eras of the past century treated in a balanced manner. There was a focus on social change and design, with the aim less to showcase individual creators than to span a wide range of genres including graphic design, crafts, and furniture.

The result was an exhibition that offered a more complete picture of Czech history and reinvigorated the image of Czech design, acquainting viewers with aspects not previously known in Japan including unique styles such as Czech Cubism, design during the World War II years, and everyday items from the postwar Czechoslovak era. The 20th century was a time of drastic social transformation and fundamental changes to the system of the state, and these changes also affected designers' working environments, as reflected in the modalities of design in each era. This situation is not unique to the Czech Republic, and the exhibition provoked thought about relationships between society and design more broadly.

Before and after its run at MoMAK, this exhibition was also held at Okazaki City Mindscape Museum (April 6 - May 19, 2019), Toyama Prefectural Museum of Art and Design (June 1 - July 28, 2019), Setagaya Art Museum (September 14 - November 10, 2019) and The Museum of Modern Art, Kamakura & Hayama (July 31 - September 22, 2020).

(MOTOHASHI Jin)

年9月14日～11月10日)、神奈川県立近代美術館葉山館(2020年7月31日～9月22日)にて開催された。(本橋仁)

カタログ Exhibition Catalogue

日本語、英語：16.3×23.4cm、254頁
 図版 カラー223点；参考図版 カラー1点、モノクロ2点

収録論文等

「チェコ・デザインの100年」ルツィエ・ヴルチコヴァー、マリアナ・クビシュトヴァー
 「帰るべき場所—《チェコ・デザイン100年の旅》展開催にあたって」水沢勉
 「チェコとキュビズム」遠藤望

編集：清水真砂、遠藤望、樋口菜呂奈(世田谷美術館)、横敦子、柴田勢津子(株式会社イデップ)
 編集協力：小幡早苗、鏡味千佳(岡崎市美術博物館)、稲塚展子、湯佐明子(富山県美術館)、梅原比呂子
 執筆：ヘレナ・ケーニクスマルコヴァー(チェコ国立プラハ工芸美術館)、ルツィエ・ヴルチコヴァー、マリアナ・クビシュトヴァー(チェコ国立プラハ工芸美術館)、水沢勉(神奈川県立近代美術館)、遠藤望(世田谷美術館)
 翻訳(チェコ語)：阿部賢一、宮崎淳史、横敦子
 翻訳(英語)：ヴラジミール・シェフランカ、山本仁志、赤井駒子
 アートディレクション：柿木原政広(株式会社10)
 デザイン(表紙、章扉、章解説)：西川友美(株式会社10)
 制作協力：美術出版社 デザインセンター
 印刷：株式会社サンニチ印刷
 発行：チェコ国立プラハ工芸美術館、株式会社イデップ

ミニブック Mini Book from One Piece of Paper

「紙から本へ チェコのおもちゃと椅子のミニブック」

日本語：14.9 cm×10.5 cm、14頁
 図版 カラー12点、無料配布

助成：一般財団法人ニッシャ印刷文化振興財団

新聞雑誌等関係記事 Articles

【新聞記事】

朝日：4月14日(夕) 蔵出し美術展「チェコデザイン 20世紀の歩み」(田中ぬれ奈)
 京都：5月16日「休館中の美術館 動画を発信」(前芝直介)
 読売：5月27日「チェコ・デザイン 100年の変遷 左京で開幕ポスター、玩具など250点」
 読売：6月2日(夕)「チェコ・デザイン100年の旅 激動の時代 彩る」
 読売：6月3日「チェコ・デザイン100年の旅(上) キュビズム 生活に」(本橋仁)
 読売：6月4日「チェコ・デザイン100年の旅(中) シンプルな機能美」(本橋仁)
 読売：6月5日「チェコ・デザイン100年の旅(下) 丈夫さとかわいさ」(本橋仁)
 産経：6月5日(夕)「チェコ・デザイン100年の旅 装飾化と単純化 行き来する流行(正木利和)」
 読売：6月11日(夕)「『チェコ・デザイン100年の旅』展 実験精神 暮らし彩る 19世紀末～現代 250点紹介」(藤本幸大)
 京都：6月20日「時代映すチェコのデザイン史 独立や戦争、社会主義から民主化 京近美、現代までの作品展示」(前芝直介)
 京都：7月2日 ミュージアムのちから コロナ禍に考える「〈名作〉と自問の波 田村宗立《越後海岸図屏風》ほか」(林屋祐子)

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース〈見る〉No. 508 (5-6月号)「コロ



会場風景(撮影：河田憲政)

ナ禍休館中のミュージアムについての対話」(春口混平)
 京都国立近代美術館 友の会ニュース 2019年11月号 no. 70「チェコ・デザイン 100年の旅」
 京都国立近代美術館 友の会ニュース 2020年1月号 no. 71「チェコ・デザイン 100年の旅」
 月刊京都(2020年4月) No. 825「アニメやおもちゃに至るまで、世界を魅了するチェコのデザイン」
 PEN(2020年4月) No. 493「岡崎—美術館 横文彦設計の建築で、アートとデザインを鑑賞」『小箱《悪魔》』
 architecturephoto®(2020年4月8日)「グラフィックデザイナー 西村祐一/Rimishunaと、京都国立近代美術館のキュレーター 本橋仁の展示デザインによる、展覧会《チェコ・デザイン 100年の旅》」(撮影：守屋友樹)
 京都観光コンシェルジュ(2020年春夏号) Vol. 10「近現代アートに親しむ Special Exhibition Schedule」
 週刊ポスト(2020年5月)「〈……何に使うんだろう?〉楽しいツッコミで学ぶチェコのデザイン史 京都国立近代美術館」
 AXIS Web Magazine(2020年5月25日) REPORT「デザイン展における展示デザインについて考える《チェコ・デザイン 100年の旅》京都展の魅力」(撮影：Yuki Moriya)
 My Nara(2020年6月)「インターネットでアート鑑賞 ニコニコ美術館◆中継映像をタイムシフトで視聴」

日本・ポーランド国交樹立100周年記念 ポーランドの映画ポスター

100th Anniversary of Poland-Japan Diplomatic Relations
Polish Posters for Films

共催：国立映画アーカイブ
後援：駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター
会期：2020年5月26日(火)～7月12日(日) (42日間)※
入場者数：11,582人(一日平均：276人)
※新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のための臨時休館により、当初会期2020年3月17日～5月10日が上記の通り変更となった。

Co-organizer: National Film Archive of Japan
Support: Embassy of the Republic of Poland, Polish Cultural Institute in Tokyo
Dates: Tuesday, May 26 - Sunday, July 12, 2020 *
Visitors: 11,582 (276 per day)
* Due to the temporary closure against the COVID-19 Pandemic, the original exhibition date, March 17 - May 10, 2020, had to be changed.

本展は、国立映画アーカイブと継続して企画・開催している「映画ポスター」展の第8回目にあたる。今回は、2019年がちょうど、日本とポーランドが国交を樹立して100年となる記念の年であるため、ポーランドの映画ポスターを採り上げることとなった。

1950年代、「ポーランド派」の登場とともに、斬新なグラフィックで世界を驚かせたポーランドのポスターは、とりわけ映画ポスターの分野で数々の傑作を生み出した。単なる宣伝媒体にすぎなかった映画ポスターをひとつの芸術に高めたその実践は、以前に国立映画アーカイブとの共催で展覧会を開催した同じく旧社会主義国のチェコやキューバの映画ポスターに波及しただけでなく、当時の西側諸国においても高く評価され、現在に至っている。

本展は、1950年代から90年代にかけてのポーランドの映画ポスターの神髄を、国立映画アーカイブの所蔵作品を中心とした95点の作品で紹介することを目的とした。展覧会は、(1) ポーランド映画のポスター、(2) 日本映画のポスター、(3) 外国映画のポスター、の三章立てとし、ポスター・グラフィックの多彩さを紹介するだけでなく、自国製作以外の映画の公開といった映画をめぐる社会的背景にも目が向けられるように工夫した。またこれまで同様今回も、展示した映画ポスターの、日本公開未公開に関わらないすべての映画の内容およびグラフィックデザイナーの経歴について調査を行い、その成果を会場の作品キャプションと展覧会図録で公開した。



ポスターデザイン：村松道代

This exhibition was the eighth in a series of film poster exhibitions that are organized and held in conjunction with the National Film Archive of Japan on an ongoing basis. As 2019 marked the 100th anniversary of diplomatic relations between Poland and Japan, Polish movie posters were selected as the focus of this exhibition.

With the advent of the “Polish School” in the 1950s, Polish poster designers stunned the world with their innovative graphics, producing many masterworks especially in the field of film posters. Their practice, which elevated the film poster from a mere vehicle for publicity into an art form, was not only echoed in film posters from Czech Republic and Cuba, other former Communist bloc nations previously featured in exhibitions co-organized with the National Film Archive of Japan, but also earned high acclaim in Western nations at the time that continues to this day.

The objective of this exhibition was to illuminate the essence of Polish film posters from the 1950s to the 1990s through 95 works, notably those from the collection of the National Film Archive of Japan. The exhibition consisted of three sections – (1) posters for Polish films, (2) posters for Japanese films, and (3) posters for films from other countries – and in addition to showcasing the broad diversity of posters and graphics, endeavored to focus on the social context of films, such as the release of films produced outside Poland. As in past exhibitions in this series, we investigated the contents of all films for which posters were exhibited, regardless of whether the films were released in Japan, and the careers of the graphic designers, and made this information available in the works’ captions at the venue and in the exhibition catalogue.

The exhibition was also held at the National Film Archive of Japan from December 13, 2019 to March

本展は、2019年12月13日～2020年3月8日の会期で国立映画アーカイブでも開催され、好評を博した(但し、新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のため、2月29日より開催中止)。

(池田祐子)

8, 2020, and was very well received (however, as a COVID-19 pandemic countermeasure, it closed early on February 29).

(IKEDA Yuko)

カタログ Exhibition Catalogue

日本語、英語：28×22.5cm、96頁
図版カラー96点；参考図版モノクロ7点

収録論文等

「ポーランドにおけるポスターのデザインやその役割—映画ポスターを中心に—」加須屋明子
「〈映画ポーランド派〉とそのポスター—『愛される方法』を中心に—」久山宏一

編集：国立映画アーカイブ、京都国立近代美術館
執筆：加須屋明子(京都市立芸術大学)、久山宏一(東京外国語大学/ポーランド広報文化センター)、岡田秀則、濱田尚孝(ともに国立映画アーカイブ)、池田祐子(京都国立近代美術館)
デザイン：村松道代
印刷：株式会社新光
発行：独立行政法人国立美術館/国立映画アーカイブ、京都国立近代美術館

新聞雑誌等関係記事 Articles

【新聞記事】

産経：6月26日(夕)「表現自在 映画ポスター」

京都：12月9日「独ソに翻弄 困難な歴史 昨年国交樹立100年 ポーランド研究の現在」(内田孝)

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 507 (3-4月号)
「〈ポーランド派〉誕生前後—社会主義リアリズム映画と『鉄路の男』」(菅原祥)

京都国立近代美術館 友の会ニュース 2020年1月号 no.71「日本・ポーランド国交樹立100周年記念 ポーランドの映画ポスター」

文化庁広報誌ぶんかる(Web) (2020年2月10日)アートダイアリー 067「日本・ポーランド国交樹立100周年記念 ポーランドの映画ポスター」(池田祐子)

DiaLA. (2020年3月1日) Vol. 61「春のおすすめ展覧会」(藤田千彩)

千里タイムズ(2020年3月13日)第2105号「日本・ポーランド国交樹立100周年記念 ポーランドの映画ポスター展」

建築と社会(2020年3月)vol.101 No. 1176 Information

編集サービス (2020年6月20日) 840号 情報〈アートが好き 開催中とこれからの展覧会〉「日本・ポーランド国交樹立100周年記念 ポーランドの映画ポスター」



会場風景(撮影：河田憲政)

京都国立近代美術館所蔵作品にみる

京のくらし ―二十四節気を愉しむ

From MoMAK Collection
Life in Kyoto – Arts in Seasonal Delight共催：NHK京都放送局、KBS京都、京都新聞
会期：2020年7月23日(木・祝)～9月22日(火・祝) (54日間)
入場者数：13,082人(一日平均：242人)Co-organizer: NHK Kyoto Station; Kyoto Broadcasting System Co. Ltd.;
The Kyoto Shimbun
Dates: Thursday/Holiday, July 23 – Tuesday/Holiday, September 22, 2020
Visitors: 13,082 (242 per day)

ポスターデザイン：木村幸央



本展では、季節の移ろいを把握する目安として用いられてきた「二十四節気」という区分に沿って、京都のくらしに息づく自然現象や草花、生き物、祭や行事などを、当館コレクションのあらゆるジャンルから精選した美術・工芸作品266点に加え、地元テレビ局の協力を得て製作した実際の風景や行事の映像によって紹介した。

本展は、2020年に開催予定であった東京オリンピック・パラリンピックを機に国内外から京都を訪れる人に、古来京都さらには日本で育まれてきた自然とくらしそして芸術の豊かな関わりを紹介し、幅広いジャンルを網羅する当館コレクションの魅力をよりよく知ってもらうために企画された。その本来の目的は、新型コロナウイルス感染拡大により叶わなかったが、一方で感染拡大防止のため外出自粛を強いられた人々に、改めて自然とくらし、そしてそれに関わる芸術のあり方に関する再考を促し、結果的にその需要に応える展覧会となった。さらに、コロナ禍で外部からの作品借用が困難となった状況下で、自らのコレクションの厚みと特性を再認識する機会となり、コレクションを新たな切り口で見せる展覧会の一例を示すことができた。

本展では、出版社とタイアップし、二十四節気

All of the works in this MoMAK Collection Exhibition involve natural phenomena, flowers and vegetation, animals, and festivals and events that are intertwined with life in Kyoto, organized according to the theme of “the 24 solar terms” traditionally used to track the changing seasons. The 266 carefully selected works of art and crafts from various genres were presented along with video footage of actual scenery and events, produced with the cooperation of a local television station.

This exhibition explored the rich relationships between nature, life, and art that have been fostered in Kyoto and in Japan since ancient times. It was designed to give the many expected visitors to Kyoto from throughout Japan and overseas, in conjunction with the Tokyo Olympics and Paralympics scheduled for 2020, a comprehensive picture of the MoMAK collection, which encompasses a wide range of genres. This initial purpose was not achieved due to the coronavirus (COVID-19) pandemic, but the exhibition was reframed as one that encouraged people forced to refrain from non-essential travel and outside activity to re-examine nature, everyday life, and related works of art, and it succeeded in fulfilling this objective. Also, circumstances in which the pandemic made it difficult to borrow works from other institutions presented an opportunity to reaffirm the abundance and distinctive features of the museum's own collection, and we were able to stage an exhibition that showcased the collection from a new perspective.

For this exhibition, we collaborated with a

を切り口として当館コレクションを紹介する書籍を日英バイリンガルで出版し好評を得た。また展覧会に重層性を持たせるため、同時期開催のコレクション展において、京都の市井の情景を撮影した東松照明による写真シリーズ「京まんだら」(75点)を一挙公開した。

(池田祐子)

publisher and released a bilingual book introducing the MoMAK collection in Japanese and English, with the 24 solar terms of the year as a point of departure, and it was very positively received. In addition, to give the exhibition a more multi-layered structure, we concurrently presented the entirety of Tomatsu Shomei's *Kyoto-Mandala*, a series of 75 photographs documenting scenes of local Kyoto life.

(IKEDA Yuko)

カタログ
Exhibition Catalogue

なし

※展覧会に合わせて青幻舎より関連書籍『京都国立近代美術館所蔵作品にみる 京のくらし ―二十四節気を愉しむ』を発行
日本語、英語：24.6×18.2cm、240頁
図版 カラー333点

収録論文等

「節気解説」 筧菜奈子

「京都国立近代美術館コレクションにみる二十四節気」 池田祐子

編著：京都国立近代美術館+筧菜奈子

編集：池田祐子、古屋歴(青幻舎)

執筆：筧菜奈子(東海大学)、池田祐子(京都国立近代美術館)

協力：平井啓啓、高見澤なごみ(ともに京都国立近代美術館)

翻訳：Beth Cary

デザイン：木村幸央

発行：株式会社青幻舎

印刷・製本：株式会社ライブアートブックス

TV・ラジオ関係放送
TV, Radio

NHK京いちにち ニュース630：7月28日「京都国立近代美術館 展覧会《京のくらし～二十四節気を愉しむ～》」(出演：池田祐子)

NHK関西ラジオワイド：8月4日午後5時50分～6時 関西文化情報「京のくらし 二十四節気を愉しむ」(沢田眉香子)

新聞雑誌等関係記事
Articles

【新聞記事】

京都：1月25日 情報ワイド「2020年の本社主催事業紹介」

京都：7月21日「京のくらし―二十四節気を愉しむ ゆとり、あこがれ。」(林屋祐子)

京都：7月24日「二十四節気の移ろい 芸術品で」(中西英明)

京都民報：8月2日 第2943号「京のくらし―二十四節気を愉しむ 芸術に巧みに自然取り入れ かげがえのない日常」(白沢正)

毎日：9月9日(夕)「二十四節気と京都 京近美で企画展」(三輪晴美)

産経：9月11日(夕)「美と遊ぶ 京のくらし 二十四節気を愉しむ 京都国立近代美術館 四季に彩られた日常」(正木利和)

京都：9月17日「本誌連載中 澤田康彦さん特別講演会 二十四節気に生活の原点」(行司千絵)

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース〈見る〉No. 509 (7-8月号)「近現代・京都人のこころ・精神―自然観・美意識をめぐって」(冷泉為人)

京都国立近代美術館ニュース〈見る〉No. 510 (9-10月号)「季節の感覚、時候の風物に誘発された創意の精華」(太田垣寛)

京都国立近代美術館 友の会ニュース 2020年7月号 no. 72「京のくらし―二十四節気を愉しむ」

文教ニュース(2020年8月17・24日)第2611・12合併号「京都

国立近代美術館で開幕《京のくらし 二十四節気を愉しむ》
婦人画報(2020年9月)No. 1406 編集部おすすめの展覧会
目の眼(2020年10月)No. 529「特集◇京都美術館探訪 岡崎エリア 美の系譜 京都国立近代美術館 明治以降の京都をめぐる〈イメージの宝庫〉」
月刊京都(2021年1月)No. 834「BOOKS 心に残った本、最新刊の本、話題の本を読む 京のくらし 二十四節気を愉しむ」



会場風景(撮影：河田憲政)

人間国宝 森口邦彦 友禅／デザイン

— 交差する自由へのまなざし

MORIGUCHI Kunihiko: Yuzen / Design — Crossroads of Creativity

主催：京都国立近代美術館、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会、日本経済新聞社、京都新聞
 特別協力：三越伊勢丹ホールディングス
 会期：2020年10月13日(火)～12月6日(日) (48日間)
 入場者数：12,706人(一日平均：265人)
 ※新型コロナウイルス感染予防・拡散防止のための臨時休館により、当初会期2020年5月23日～7月12日が上記の通り変更となった。

Organizer: The National Museum of Modern Art, Kyoto; Agency for Cultural Affairs; Japan Arts Council; Nikkei, Inc.; The Kyoto Shimbun
 Special Cooperation: Isetan Mitsukoshi Holdings
 Dates: Tuesday, October 13 - Sunday, December 6, 2020
 Visitors: 12,706 (265 per day)
 Due to the temporary closure against the COVID-19 Pandemic, the original exhibition date, May 23 - July 12, 2020, had to be changed.



ポスターデザイン：シルシ (上田英司・叶野夢)

本展は「友禅」の重要無形文化財保持者・森口邦彦の初めてとなる回顧展である。

1941年に友禅作家の森口華弘の次男として京都に生まれた森口は、京都市立美術大学（現京都市立芸術大学）日本画科を卒業後、フランス政府給費留学生として渡仏。約三年間をパリの国立高等装飾美術学校に学んだ。帰国後は、パリで学んだグラフィック・デザインの思考と幾何学文様を大胆に組み合わせることで、伝統工芸の「友禅」に留まらない新しい創作の可能性を拓いてきた。そもそも江戸時代に確立した友禅とは、意匠（デザイン）と染色技法の両輪からなるもので、まさに森口の仕事とは「友禅」の世界観を表象したものである。

過去に多くの美術館で開催されてきた着物展では、着物それ自体の紹介に終始することが多かったが、本展では草稿と作品、デザインと友禅との関係を企画構成上の柱におき、回廊型の展示室を利用して角を曲がるごとに見える世界が変わっていくように作品を配置することで、デザインと友禅の関係性を体感できる会場構成とした。また、着物や草稿に加えて、平面上のパターン展開による連作、三越のショッピングバッグやフランス国立の磁器製作所のセーヴルとのコラボレーション作品なども展示することで、技と感性を出発点に社会に友禅・デザインを還元させる森口の創作世界全体を紹介した。

関連イベントとして、当館学芸課長の池田祐子や文化庁文化財調査官の生田ゆきを聞き手とし

This was a retrospective of the work of Moriguchi Kunihiko, who has been designated a Living National Treasure of Japan for his mastery of the Yuzen (resist dyeing) technique.

Moriguchi was born in 1941 in Kyoto, the second son of the Yuzen artisan Moriguchi Kako. The younger Moriguchi graduated from the Nihonga (Japanese-style painting) Department of Kyoto City University of Arts, and then went to France on a scholarship from the French government, studying at École Nationale Supérieure des Arts Décoratifs for around three years. After returning to Japan, he pioneered new creative possibilities that go beyond the traditional craft of Yuzen by boldly combining graphic design ideas and geometric patterns informed by his studies in Paris. Yuzen, which was established in the Edo Period (1603-1868), comprises both graphic design and textile dyeing techniques, and Moriguchi's work is truly an embodiment of the Yuzen worldview.

In kimono exhibitions that have been held at many museums in the past, presentation of kimono in and of themselves was often the entire focus, but this exhibition was centered around the relationship between preliminary drawings and finished works, and between design and Yuzen dyeing. With the works displayed in a series of corridor-type galleries, so that viewers' perspectives changed each time they turned a corner, they gained an immersive experience of the relationship between design and Yuzen. In addition to kimono and preliminary drawings, the exhibition featured a series of works comprising patterns unfolding on flat surfaces, as well as collaborative works exemplified by his shopping bags for the Mitsukoshi department store and work with the French national porcelain manufactory of Sèvres. This offered a comprehensive picture of the creative

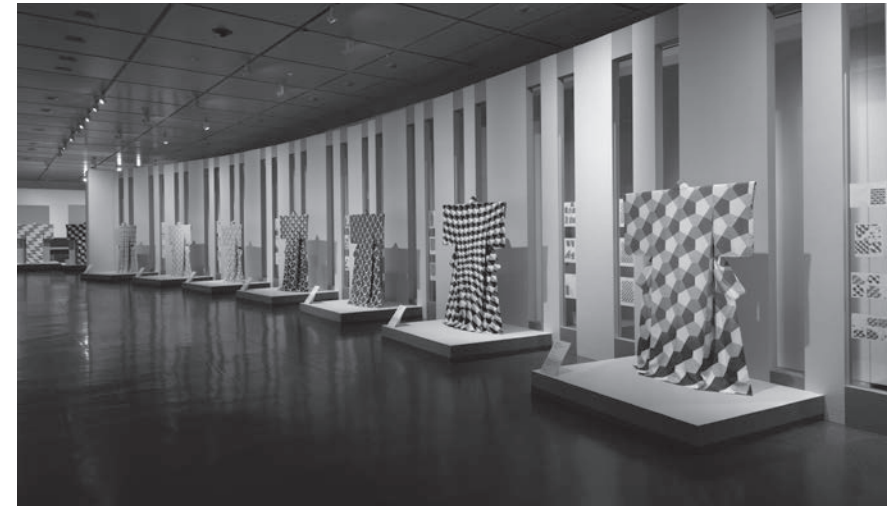
な森口の講演会を開催したほか、森口によるインスタライブを開催した。

(大長智広)

world of Moriguchi, who takes artisanal skills and refined sensibilities as a point of departure for a practice that reintroduces this venerable tradition to contemporary society.

In related events, we organized a lecture by Moriguchi with Chief Curator Ikeda Yuko and Agency for Cultural Affairs cultural properties researcher Ikuta Yuki as moderators, as well as an Instagram Live event streamed by Moriguchi.

(DAICHO Tomohiro)



会場風景(撮影：河田憲政)

カタログ Exhibition Catalogue

日本語、英語、仏語：24.5×18.8 cm、639頁
 図版 カラー252点、参考図版 モノクロ10点

収録論文等

「森口邦彦——友禅を継ぐ、そして自由へ」大長智広
 「デュアリティー森口邦彦の多次元の芸術」シャロン・S・タケダ
 「森口邦彦のフランス時代—友禅・着物に見出した可能性をめぐって」池田祐子
 「〈技と美〉から〈技の美〉へ」大江ゴティニ純子

編集：大長智広、渡邊くらら、高見澤なごみ(すべて京都国立近代美術館研究)
 編集協力：木村しのぶ(福本事務所)、京都国立近代美術館2019年度インターンシップ実習生(飯田花織、北山明乃、手塚朱映、山本結菜)
 執筆：大長智広、シャロン・S・タケダ(ロサンゼルス・カウンティ美術館)、池田祐子(京都国立近代美術館)、大江ゴティニ純子(在仏アートプロデューサー/フランス政府在外文化施設ヴィラ九条山/セーヴル・リモージュ陶芸都市芸術諮問委員会)
 翻訳：マーティ・イェリネク、ベス・ケリー、大長智広
 アートディレクション：上田英司(シルシ)
 デザイン：上田英司、叶野夢(シルシ)
 印刷：NISSHA株式会社
 発行：京都国立近代美術館

新聞雑誌等関係記事 Articles

【新聞記事】
 京都：1月4日「2020主な本社事業 新鋭優品から東西名画まで多彩に文化掘り下げ」
 京都：10月10日「幾何学 奏でる 美のリズム 和装の世界観超え、コラボ拡大」(前芝直介)
 京都：10月13日「友禅×デザイン 独自世界迫る 左京 きょうから 森口さん作品展」(前芝直介)

日経：10月19日「人間国宝・森口邦彦〈友禅とデザイン〉〈交差〉で生まれる創作の全貌」
 神戸：10月23日「現代友禅 抽象の美 京都で森口邦彦展」(堀井正純)
 毎日：10月25日「幾何学世界の美を追求 友禅・人間国宝 森口邦彦さん回顧展」(南陽子)
 京都：10月31日「森口邦彦展 綿密考察 視覚への挑戦」(前芝直介)

朝日：11月24日(夕)「友禪に幾何学模様 独創の50年 京都で森口邦彦の回顧展」(紙谷あかり)
 産経：11月27日(夕)「染色家・森口邦彦 業績一堂に」
 京都：12月19日「美術界この1年 京都を中心に 問われた鑑賞のあり方」(前芝直介)

【雑誌記事その他】

京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 510 (9-10月号)「裏返された便箋」(生田ゆき)
 京都国立近代美術館ニュース〈視る〉No. 512 (1-2月号)「感想(人間国宝 森口邦彦 友禪／デザイン—交差する自由へのまなざし) 鑑賞」(切畑健)
 美しいキモノ (2020年春)No. 271「東京・京都・ロンドン2020年は世界中がきものに注目! この一領を見よ!《森口邦彦 友禪／デザイン 交差する自由へのまなざし》(仮称)」(選者：猪本典子)
 京都国立近代美術館 友の会ニュース 2020年10月号no.73「人間国宝 森口邦彦 友禪／デザイン—交差する自由へのまなざし」

Jamalp (2020年10月)No. 1188「この秋は工芸の展覧会にぜひ。人間国宝 森口邦彦 友禪／デザイン 交差する自由へのまなざし 新しい表現を確立した友禪作家の大規模作家」
 DiaLA. (2020年10月)Vol. 64「PICKS Culture〜特別編〜」
 文教速報 (2020年10月21日) 第8903号「京近美で〈人間国宝 森口邦彦〉展」
 和楽 (2020年10・11月) 全国主要美術館「注目の展覧会 [京都国立近代美術館]《人間国宝 森口邦彦 友禪／デザイン 交差する自由へのまなざし》」
 京都観光コンシェルジュ (2020年秋冬号)Vol. 11「京都国立近代美術館 近現代アートの宝庫! Spacial Exhibition Schedule」
 文化庁広報誌ぶんかる (Web) (2020年11月) アートダイアリー073「人間国宝 森口邦彦 友禪／デザイン 交差する自由へのまなざし」(大長智広)
 文藝春秋(2020年12月)「伝統と革新の友禪」
 芸術新潮 (2020年12月)「現代友禪の第一人者 半世紀の“デザイン展”」

440 共催展

分離派建築会100年 建築は芸術か?

100 Years of BUNRIHA: Can Architecture Be Art?

主催：京都国立近代美術館、朝日新聞社
 後援：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築家協会、一般社団法人DOCOMOMO Japan、建築史学会、一般社団法人京都府建築士会
 協賛：株式会社アール・アイ・エー、株式会社 石本建築事務所、株式会社山田総合設計
 協力：一般財団法人デジタル文化財創出機構
 学術協力：分離派100年研究会
 会期：2021年1月6日(水)～3月7日(日) (53日間)
 入場者数：12,999人(一日平均：245人)

Organizer: The National Museum of Modern Art, Kyoto; The Asahi Shimbun
 Support: Architectural Institute of Japan; The Japan Institute of Architects; DOCOMOMO Japan,
 Society of Architectural Historians of Japan; Kyoto Society of Architects & Building Engineers
 Sponsorship: RESEARCH INSTITUTE OF ARCHITECTURE CO.,LTD.; Ishimoto Architectural & Engineering Firm, Inc.; YAMADA ARCHITECTS & ENGINEERS.INC.
 Cooperation: Society for Digital Heritage
 Academic support: 100 Years of Bunriha Study Group
 Dates: Wednesday, January 6 - Sunday, March 7, 2021
 Visitors: 12,999 (245 per day)



ポスターデザイン：西岡勉

昨今、日本の現代建築は世界的に高い評価を受けている。こうした日本の建築文化は、一朝一夕で作上げたのではなく、明治から現代までの150年の模索の過程のうえに成り立っていてもいる。とくに日本が独自の建築へ歩みを進めた「大正時代」は非常に重要な時代であり、1920年に結成した「分離派建築会」はその中心であり、日本近代建築史においてエポックメイキングな出来事として語られてきた。一方、これまでの分離派建築会の紹介は一面的なものであった。というのも、大正時代の構造・機能への偏重への対立軸として彼らは取り上げられるに留まり、彼らが構想・設計した建築それ自体への言及は少ないものであったからだ。

そこで本展は、分離派建築会の建築それ自体を主題に設定し、その設計の背景となる同時代の建築以外の芸術分野との比較を通して、大正時代の建築を再考・紹介した。例えば、彫刻作品と建築との関係性を紹介するセクションでは、分離派建築会のメンバーが高い関心を示したオーギュスト・ロダンやアレクザンダー・アーキペンコといった彫刻家の作品を建築と並列して展示するなどし、建築分野に限らない影響関係を考察していった。これまでも建築と彫刻、その他の芸術との親和性は指摘されながらも、それを目に見える形で紹介した例は見られなかった。そうした取組もあり、本展は建築分野のみならず他分野の芸術に関心

Japanese contemporary architecture has been highly esteemed worldwide in recent times. Of course the Japanese architectural world was not built in a day, but through 150 years of exploration, from the Meiji Era (1868-1912) to the present day. The Taisho Era (1912-1926), when Japan developed its own distinctive style of modern architecture, was a particularly important one, and the Bunriha Kenchikukai (lit. “Secessionist Architecture Group”) was at the center of it, with the group’s 1920 formation viewed as an epoch-making event in the history of modern Japanese architecture. However, previous presentations of the work of the Bunriha Architecture Group have been one-sided, focusing more or less exclusively on their opposition to the Taisho Era’s emphasis on structure and function, and the buildings they envisioned and designed have scarcely been discussed on their own terms.

With this in mind, this exhibition had the theme of Bunriha architecture in and of itself. It re-examined and showcased the architecture of the Taisho Era by comparing it with contemporaneous art in fields other than architecture, which formed the context for its design. For example, in a section exploring relationships between sculpture and architecture, the works of sculptors such as Auguste Rodin and Alexander Archipenko, in which Bunriha members took a keen interest, were exhibited alongside architectural designs, highlighting relationships of influence not limited to the architectural field. While pointing out affinities between architecture, sculpture, and other art forms is not unprecedented, there have been few examples of these connections being introduced to viewers in visible form. Thanks to this

が高い層からの反響も大きいものとなった。

なお、本展は、当館に先立ち2020年10月10日から12月15日にかけて、パナソニック汐留美術館でも開催された。

(本橋仁)

カタログ Exhibition Catalogue

日本語、英語：24.7×18.7cm、275頁
図版 カラー267点；参考図版 カラー1点、モノクロ35点

収録論文等

- 「分離派建築会—モダニズム建築への問題群」 田路貴浩
- 「分離派誕生の背景—東京帝国大学の建築教育」 加藤耕一
- 「建築の残欠—大正から現代、分離派建築会が生きた証を展示する」 本橋 仁
- 「トピック1 平和記念東京博覧会 分離派建築会のデビュー」
- 「トピック2 関東大震災 新しい東京」
- 「分離派建築会の展覧会と出版活動について」 菊地潤(建築家、iffa[建築と美術研究会] 会員)

編集：大村理恵子(パナソニック汐留美術館学芸員)、本橋仁(京都国立近代美術館特定研究員)
編集協力：勝原基貴(千葉大学特任研究員)、木村しのぶ(福本事務所)
執筆：分離派100年研究会(天内大樹、市川秀和、大村理恵子、岡山理香、勝原基貴、加藤耕一、河田智成、菊地潤、近藤康子、杉山真魚、大宮司勝弘、田路貴浩、田所辰之助、角田真弓、本橋 仁)
翻訳：クリストファー・ステヴィンズ、深見優子、株式会社フレイズクレーズ
撮影：相馬徳之(株式会社千代田スタジオ)、守屋友樹、今村裕司(むら写真事務所)
デザイン：西岡勉
印刷：日本写真印刷コミュニケーションズ
発行：朝日新聞社

小冊子 Brochure

「マンガで見る! 分離派建築会 実録エピソード」

日本語：25.8×18.2cm、14頁
無料配布

マンガ：Y田Y子
企画・発行：京都国立近代美術館、パナソニック汐留美術館、朝日新聞社
印刷：日本写真印刷コミュニケーションズ
助成：一般財団法人ニッシャ印刷文化振興財団

新聞雑誌等関係記事 Articles

【新聞記事】

毎日：10月21日「分離派建築会100年 建築は芸術か?〈日本独自〉を模索した運動」(高橋咲子)

朝日：1月4日「分離派建築100年 建築は芸術か?美を追求した若者たち」(田中ぬれ奈)

読売：1月5日「原点見直すコレクション展」

朝日：1月6日「〈分離派建築会100年展〉開幕」

朝日：1月19日「国重文のパネル ほろっと一粒 京菓子の塩芳軒、落雁で緻密に再現〈分離派建築会〉展 コラボ企画で販売」(高井里佳子)

読売：1月21日(夕)「現代建築 模索した〈分離派〉」(藤本幸大)
産経：1月29日(夕)「美と遊ぶ 分離派建築会100年 建築に〈芸術〉かかげた若者たち」(正木利和)

中日：2月12日「分離派建築会 結成100年で再評価 芸術性追求若き先駆者」(宮崎正嗣)

朝日：2月16日(夕)「東京帝国大建築学科〈分離派建築会〉過去と決別 多様な作風」(大西若人)

endeavor, the exhibition resonated strongly with people who take a deep interest not only in architecture but also in other artistic disciplines.

Prior to MoMAK, this exhibition was also held at Panasonic Shiodome Museum of Art from October 10 – December 15, 2020.

(MOTOHASHI Jin)

月刊コンフォルト(2021年2月)No.177「大正から昭和へ。モダンデザインへ向かう建築運動のさきがけ 分離派建築会100年 建築は芸術か?」(取材・文：清水潤)

月刊京都(2021年2月)No. 835「機能主義では語り得ない、自然や美を探索した分離派建築会の活動」

BUNGANET(2021年1月5日)「分離派に注目01：京都国立近代美術館で「分離派建築会100年展」開幕、驚愕の図面のうまさが発信力の源?」(miyazawa_bunga／【取材協力：朝日新聞社】)

BUNGANET(2021年1月5日)「分離派に注目02：建築家・大西麻貴さん——堀口捨己の「紫烟荘」は学生時代からずっと好き!」(nagai_bunga／【取材協力：朝日新聞社】)

BUNGANET(2021年1月17日)「分離派に注目03：建築家・大西麻貴さん——分離派の建築が「生命的」であることを今考える」(nagai_bunga／【取材協力：朝日新聞社】)

BUNGANET(2021年1月21日)「分離派に注目04：小説家・津久井五月さん——分離派建築会はアート・コレクティブ的、だからエモイ!」(nagai_bunga／【取材協力：朝日新聞社】)

BUNGANET(2021年2月20日)「分離派に注目05：小説家・津久井五月さん——都市の未来像を提示した博覧会パビリオンにSF的想像力が表れる」(nagai_bunga／【取材協力：朝日新聞社】)

BUNGANET(2021年3月4日)「分離派に注目06：モデル・女優・知花くららさん——建築展は手描き図面や模型を見るのが喜び」(nagai_bunga／【取材協力：朝日新聞社】)

BUNGANET(2021年3月4日)「分離派に注目07：モデル・女優・知花くららさん——時代のうねりのなかで声を上げた人たちがいた」(nagai_bunga／【取材協力：朝日新聞社】)

BUNGANET(2021年3月5日)「分離派に注目08：イラストで見る分離派メンバー「その後」—『昭和モダン建築巡礼』より」(miyazawa_bunga／【取材協力：朝日新聞社】)

DOCOMOMO Japan News Letter No. 29 Edition 2021「〈分離派建築会100年展 建築は芸術家?〉について」(菊地潤)

「いまの時代に再考する ネット連載 〈建築はホントに芸術か? 100年目のエスキース〉」(講評者：中村裕太、小田原のどか、大室佑介/掲載：京都国立近代美術館公式ウェブサイト)



会場風景(撮影：若林勇人)

新収蔵品
New Acquisitions

令和2年度に購入した美術作品は、日本画8点、油彩19点、水彩6点、素描1点、陶芸4点、金工3点、漆工10点、染織1点、写真10点、その他3点であり、寄贈を受けた美術作品は、日本画23点、油彩5点、水彩2点、素描12点、版画1点、彫刻1点、陶芸10点、金工4点、漆工2点、書1点、資料3点、その他1点であった。

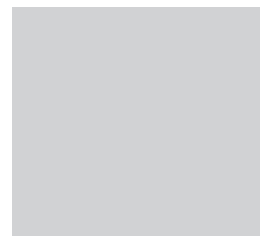
この結果、令和2年度末までの本館収蔵作品の累計は、日本画1,165点、油彩750点、水彩355点、素描1,327点、版画3,281点、彫刻114点、陶芸1,725点、金工159点、漆工157点、木工54点、竹工7点、ガラス117点、染織708点、人形2点、ジュエリー101点、書84点、写真1,969点、資料2,629点、その他717点の総計15,422点となった。

The National Museum of Modern Art, Kyoto acquired the following works in the fiscal year of 2020 (April 1, 2020 – March 31, 2021). Purchases: 8 Nihonga, or Japanese-style paintings, 19 oil paintings, 6 watercolors, 1 drawing, 4 ceramics, 3 metalworks, 10 lacquerware works, 1 textile work, 10 photographs, 3 Non-Category works. Donations: 23 Nihonga, or Japanese-style paintings, 5 oil paintings, 2 watercolors, 12 drawings, 1 print, 1 sculpture, 10 ceramics, 4 metalworks, 2 lacquerware works, 1 calligraphy, 3 reference materials, and 1 Non-Category work.

The total number of works in the collection of the Museum as of the end of the fiscal year of 2020 is 15,422; 1,165 Japanese-style paintings, 750 oil paintings, 355 watercolors, 1,327 drawings, 3,281 prints, 114 sculptures, 1,725 ceramics, 159 metalworks, 157 lacquerware works, 54 woodworks, 7 bamboo works, 117 glass works, 708 textile works, 2 dolls, 101 jewelry works, 84 calligraphies, 1,969 photographs, 2,629 reference materials and 717 Non-Category works.

新収蔵品目録
New Acquisitions List

日本画 Japanese-style paintings



猪飼嘯谷 / 高網先陣誉図 / 1938



入江波光 / 南歌小景 (聖コスタツァ寺) / 1922



上村淳之 / 四季花鳥図 / 2017



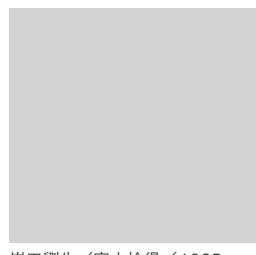
奥村土牛 / 九谷皿 / 1957



菊池芳文ほか / (合作) / 1899



岸田劉生 / 水汲み / 1915



岸田劉生 / 寒山拾得 / 1925



岸田劉生 / 厨房小寒 / 1926



岸田劉生 / 蔬菜図 / 1929



岸田劉生 / 乙女椿 / 1929



岸田劉生 / 冬日小彩 / 1929



木島桜谷 / [鹿図] / [c. 1907-16]



下村観山 / 十牛之図 / 1909



高谷仙外 / みはれるまなこ / 1915



高谷仙外 / (象と鳩) / 1912-26



都路華香 / 古木老鷲図 / c. 1903



津田青楓 / 桃花・白木蓮図 / 1920



津田青楓 / 芭蕉 / 制作年不詳



津田青楓 / 四季 / 制作年不詳



富岡鉄斎 / 携琴訪友圖 / c. 1866-75



富岡鉄斎 / 燕間四適圖 / c. 1886-95



富岡鉄斎 / 漁樵閑話圖 / 1887



富岡鉄斎 / 漁楽図 / [1917]



富岡鉄斎 / 十六應真像 / 制作年不詳



西川一草亭 / 赤松と椿 / 1920



橋本関雪 / 月下帰牧図 / c. 1938



秦テルヲ / 女郎画帖(仮) / 1914 (1)



(2)



(3) (4) (5) (6)



(7) (8) (9) (10)



(11) (12) (13) 秦テルヲ／京洛帖／1938(1)



(2) (3) (4) (5)



(6) (7) (8) (9)



(10) (11) (12) (13)



(14) 森田恒友／天草風景 無花果・川辺／c. 1916 村上華岳／秋林／1921 吉岡堅二／孔雀／制作年不詳

油彩 Oil paintings



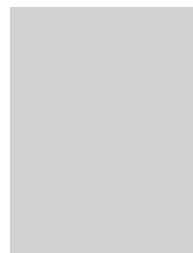
鏡光／静物／1942 岸田劉生／斜陽／1909 岸田劉生／風景／c. 1909 岸田劉生／明治末年築地居留地／c. 1911



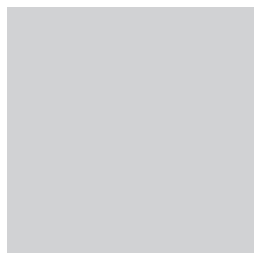
岸田劉生／夕陽／1912 岸田劉生／虎の門風景／1912 岸田劉生／居留地（築地明石町）／1913



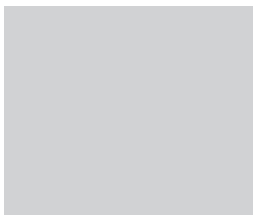
岸田劉生／(表)自画像／1913, (裏)カインとアベル／c. 1914 岸田劉生／外套着たる自画像／1912 岸田劉生／水浴童子【習作】／1914 岸田劉生／エターナル・アイドル／1914 岸田劉生／路傍／1915



岸田劉生／壺／1917



岸田劉生／壘と林檎と茶碗／1917



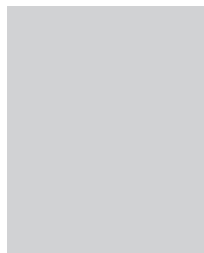
岸田劉生／鵠沼風景／1917-23



岸田劉生／芝居絵 (大安寺堤)／1923



岸田劉生／鎌倉長谷夜景／c. 1923



岸田劉生／舞妓図 (舞妓里代之像)／1926



岸田劉生／静物 (果物)／1927



岸田劉生／静物 (ギヤマン皿の静物)／1928



岸田劉生／大連星ヶ浦風景／1929



須田国太郎／夏の花／1954



野見山暁治／白い花／1966

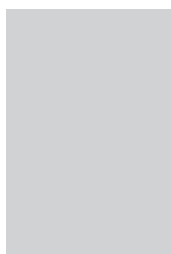


野見山暁治／なにも言わない／1997

水彩 Watercolors



岸田劉生／聖母像／c. 1914



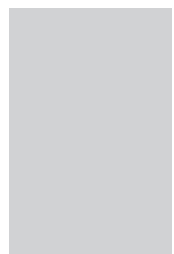
岸田劉生／麗子裸像／1920



岸田劉生／二人麗子／1921



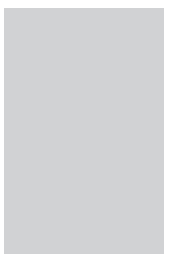
岸田劉生／二階窓外之景 (秋景)／1921



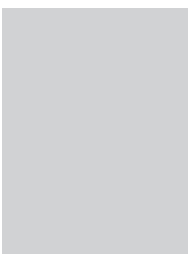
岸田劉生／自画像／1928



岸田劉生／麗子提灯を喜ぶ之図／n.d.

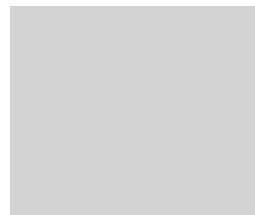


ソニア・ドローネー = テルク／リズム／c. 1915-30

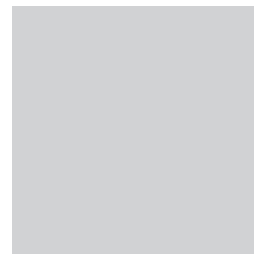


アーシル・ゴーキー／パースデイ・グリーディング／1931

素描 Drawings



甲斐庄楠音／裸婦デッサン／制作年不詳



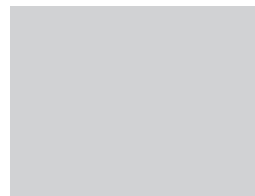
岸田劉生／天地創造／1914



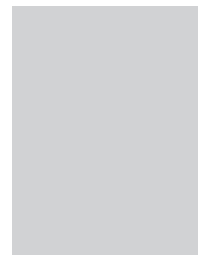
岸田劉生／リーチ氏像(1)／1914



岸田劉生／リーチ氏像(2)／1914



岸田劉生／人間創造／c. 1914



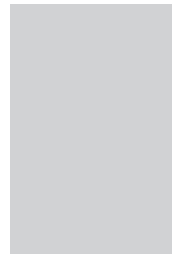
岸田劉生／永遠の女性 (聖母像)／1918



岸田劉生／手／制作年不詳



森芳雄／《石膏のある静物》草稿／制作年不詳



森芳雄／《石膏のある静物》草稿／制作年不詳



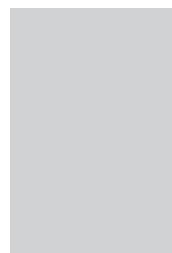
森芳雄／《石膏のある静物》草稿／制作年不詳



森芳雄／《石膏のある静物》草稿／制作年不詳

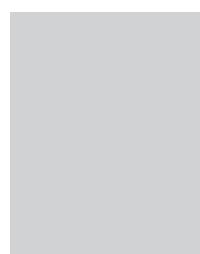


森芳雄／《石膏のある静物》草稿／制作年不詳



森芳雄／《石膏のある静物》草稿／制作年不詳

版画 Prints



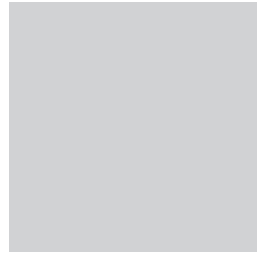
岸田劉生／リーチ氏像／1914

彫刻 Sculpture

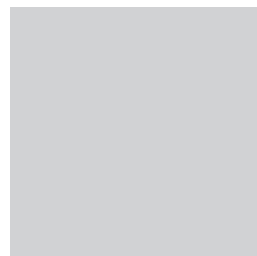


岸田劉生／手／1918

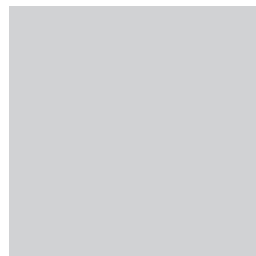
陶芸 Ceramics



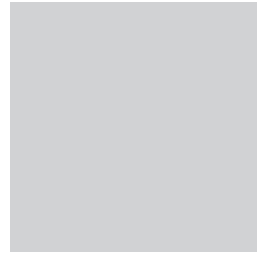
近藤豊 / 白斑点文大鉢 / c.1973



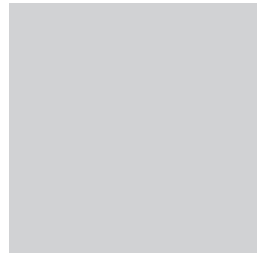
宮下善寿 / 白雪瓷三耳壺 / 1956



宮下善寿 / 告春文花瓶 / 1958



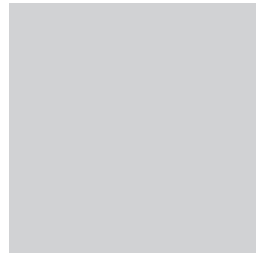
宮下善爾 / 緑釉壺 / c. 1970



宮下善爾 / 彩泥花器 / c. 1981



宮下善爾 / 方壺 迷宮の森 / 1983



宮下善爾 / 海から空へ / 1991



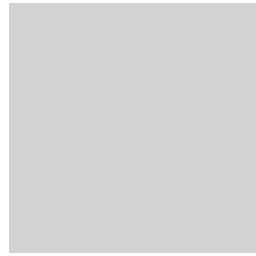
宮下善爾 / 黎明 / 1995



三代宮永東山(理吉) / 記憶の光景 / 1997



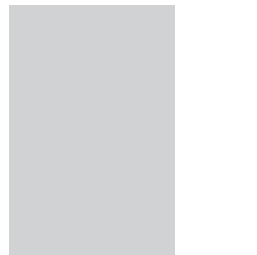
三代宮永東山(理吉) / 空架ける光景 / 1997



ニーノ・カルーソ / 抱擁 / 1957



ニーノ・カルーソ / アーキスカルプチャー (セジェスタ) / 1988-91

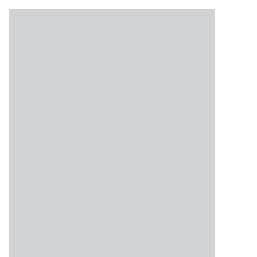


ニーノ・カルーソ / エルマー両性具有 / 1993

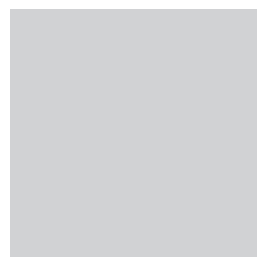


ニーノ・カルーソ / 黒いヘルマ / 1993

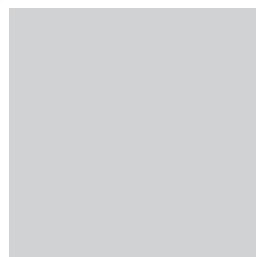
金工 Metalwork



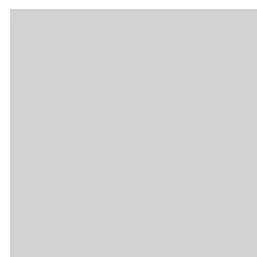
加藤忠雄 / 旋律 / 1976



加藤忠雄 / 銀飾筥「南海の譜」 / 1998



加藤忠雄 / 銀八方花瓶 / 2000



加藤忠雄 / 銀打出し香炉「干湯の主」 / 2005



山本安曇 / 信濃高原の叙情白銅花瓶 / 1920



山本安曇 / 金属酒仙 / 1937



山本安曇 / 青銅みゝたちの壺 / 1939

漆工 Lacquerware works



伊藤裕司 / 涛 / 1997



伊藤裕司 / 雪嶺 / 2010



迎田秋悦 / 菊御紋入鉄線蒔絵手箱 / c. 1890-1940



迎田秋悦 / 竹漆絵風炉先屏風 / c. 1890-1940



迎田秋悦 / 色絵蒔絵銘々皿 / c. 1890-1940



迎田秋悦 / 山海四季蒔絵重箱 / c. 1890-1940



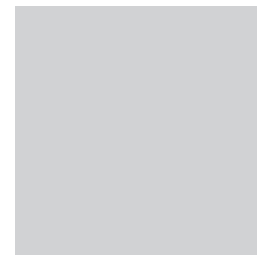
杉林古香、図案：浅井忠 / 大津絵銘々皿 / c. 1890-1912



杉林古香 / 煙草盆 / c. 1897-1906



二代鈴木表朔 / 麦藁塗大果盛 / c.1929



高橋静堂 / 彫漆花文手箱 / 1936

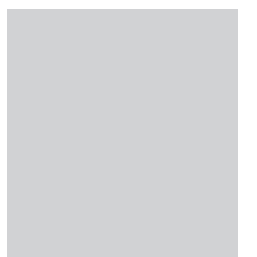


二十代堆朱楊成 / 稻荷山硯箱 / 1921



吉田醇一郎 / 春秋漆絵屏風 / 1940

染織 Textiles



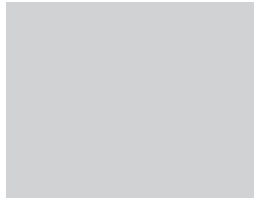
皆川月華 / 染彩繡樹下誕生屏風 / 1933

書 Calligraphy

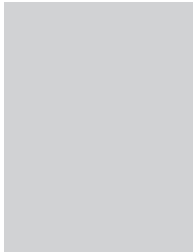


小川東洲 / 蘆雪 / 1988

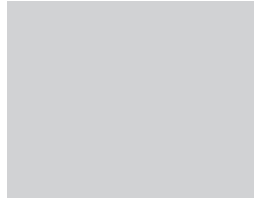
写真 Photography



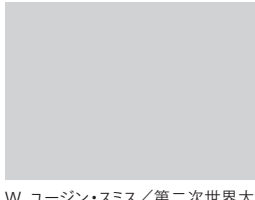
W. ユージン・スミス/第二次世界大戦：空母バンカーヒル/1943/ASC-005



W. ユージン・スミス/第二次世界大戦：アメリカ兵に見殺された溺死の赤ん坊、サイパン/1944/ASC-025



W. ユージン・スミス/第二次世界大戦：上陸開始日、硫黄島/1945/ASC-036



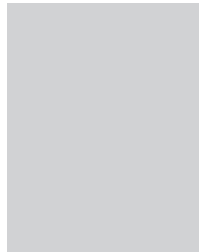
W. ユージン・スミス/第二次世界大戦：無題、沖縄/1945/ASC-046



W. ユージン・スミス/第二次世界大戦：無題、沖縄/1945/ASC-052



W. ユージン・スミス/第二次世界大戦：無題、沖縄/1945/ASC-053



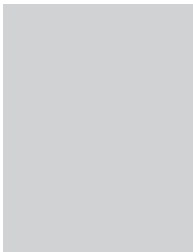
W. ユージン・スミス/第二次世界大戦：無題、沖縄/1945/ASC-054



W. ユージン・スミス/第二次世界大戦：無題、沖縄/1945/ASC-055

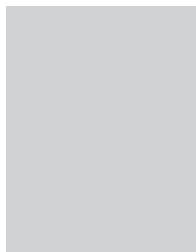


W. ユージン・スミス/スペインの村：治安警備隊/1950-51/ASC-078

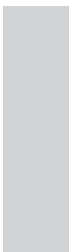


W. ユージン・スミス/スペインの村：デレイトーサ村/1950-51/ASC-079

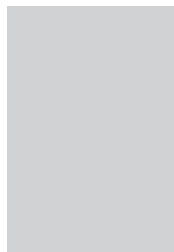
資料 Reference materials



岸田劉生/茄子之図/1928



岸田劉生/一見四水/制作年不詳



『パリ万国博覧会「現代生活における技術と芸術国際博覧会」公式ガイドブック』/1937

その他 Non-Category works



河口龍夫/関係/1970



河口龍夫/感光/1971



毛利悠子/めくる装置、3つのヴェール/2018
撮影：守屋友樹



リサ・アン・アワーバック/この織機を持って失せろ/2009

新収蔵品目録
New Acquisitions List

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法/形状	寸法 [cm]	購入・寄贈
猪飼嘯谷	(1881-1939)	高綱先陣誉図	1938	絹本着色/軸	82.5×87.3	寄贈
入江波光	(1887-1948)	南欧小景(聖コスタンツァ寺)	1922	絹本着色/軸	38.0×42.5	購入
上村淳之	(1933-)	四季花鳥図	2017	紙本着色/額(二面)	(各)90.0×180.0	購入
奥村土牛	(1889-1990)	九谷皿	1957	紙本着色/額	64.3×101.4	寄贈
菊池芳文 ほか	(1862-1918)	(合作)	1899	紙本着色/軸	56.2×89.7	高谷彬氏、高谷克己氏寄贈
岸田劉生	(1891-1929)	水汲み	1915	紙本着色/軸	102.1×29.5	寄贈
岸田劉生	(1891-1929)	寒山拾得	1925	紙本墨画/二曲一隻屏風	151.5×141.5	寄贈
岸田劉生	(1891-1929)	厨房小寒	1926	紙本着色/軸	45.9×22.0	購入
岸田劉生	(1891-1929)	蔬菜図	1929	絹本着色/軸	127.0×37.6	購入
岸田劉生	(1891-1929)	乙女椿	1929	紙本着色/軸	124.2×30.4	購入
岸田劉生	(1891-1929)	冬日小彩	1929	紙本着色/軸	120.5×31.8	購入
木島桜谷	(1877-1938)	[鹿図]	[c. 1907-16]	紙本着色/六曲一双屏風	(各)167.2×372.0	寄贈
下村観山	(1873-1930)	十牛之図	1909	絹本金地着色/画帖	画帖サイズ:30.5×24.5 色紙サイズ:(各)21.0×18.0	寄贈
高谷仙外	(1896-1966)	みはれるまなこ	1915	絹本着色/二曲一隻屏風	160.2×178.2	高谷彬氏、高谷克己氏寄贈
高谷仙外	(1896-1966)	(象と鳩)	1912-26	絹本着色/二曲一隻屏風	161.4×181.0	高谷彬氏、高谷克己氏寄贈
都路華香	(1871-1931)	古木老鷲図	c. 1903	紙本着色/軸	126.5×49.8	購入
津田青楓	(1880-1978)	桃花・白木蓮図	1920	紙本着色/二曲一双屏風	(各)172.5×186.0	加野象次郎氏寄贈
津田青楓	(1880-1978)	芭蕉	不詳	紙本墨画淡彩/軸	137.8×45.0	加野象次郎氏寄贈
津田青楓	(1880-1978)	四季	不詳	紙本墨画淡彩/軸装(十二幅対のうち四幅)	(各)134.7×29.3	加野象次郎氏寄贈
富岡鉄斎	(1836-1924)	携琴訪友圖	c. 1866-75	絹(統)本墨画/軸	149.1×66.3	寄贈
富岡鉄斎	(1836-1924)	燕間四適圖	c. 1886-95	絹本着色/軸	139.0×55.8	寄贈
富岡鉄斎	(1836-1924)	漁樵閑話圖	1887	紙本淡彩/軸	178.2×96.5	寄贈
富岡鉄斎	(1836-1924)	漁楽図	[1917]	紙本着色/軸	131.2×32.3	寄贈
富岡鉄斎	(1836-1924)	十六應真像	不詳	絹本着色/軸	149.0×55.7	寄贈
西川一草亭	(1878-1938)	赤松と椿	1920	紙本墨画淡彩/軸	138.0×45.0	加野象次郎氏寄贈
橋本閑雪	(1883-1945)	月下帰牧図	c. 1938	絹本着色/軸	58.1×72.4	寄贈
秦テルヲ	(1887-1945)	女郎画帖(仮)	1914	紙本着色/画帖(13図)	画帖:24.8×18.0 画面:(各)24.0×35.5	購入
秦テルヲ	(1887-1945)	京洛帖	1938	紙本着色/画帖(13図)	画帖:24.0×18.0 画面:(各)24.0×35.5	購入
村上華岳	(1888-1939)	秋林	1921	絹本着色/軸	49.0×56.7	購入
森田恒友	(1881-1933)	天草風景 無花果・川辺	c. 1916	紙本墨画淡彩/軸装(双幅)	(各)52.2×65.5	加野象次郎氏寄贈
吉岡堅二	(1906-1990)	孔雀	不詳	紙本着色/パネル(6面)	167.6×726.0	有限会社 鐵齋堂寄贈

油彩

鏝光	(1907-1946)	静物	1942	板、油彩/額	31.8×41.4	購入
岸田劉生	(1891-1929)	斜陽	1909	画布、油彩/額	45.5×33.1	購入
岸田劉生	(1891-1929)	風景	c. 1909	板、油彩/額	32.5×23.0	購入
岸田劉生	(1891-1929)	明治末年築地居留地	c. 1911	画布、油彩/額	32.7×44.7	購入
岸田劉生	(1891-1929)	夕陽	1912	画布、油彩/額	32.0×41.0	購入
岸田劉生	(1891-1929)	虎の門風景	1912	画布、油彩/額	32.0×41.0	購入
岸田劉生	(1891-1929)	外套着たる自画像	1912	画布、油彩/額	41.1×31.8	購入
岸田劉生	(1891-1929)	居留地(築地明石町)	1913	画布、油彩/額	31.5×41.5	購入
岸田劉生	(1891-1929)	(表)自画像 (裏)カインとアベル	1913 c. 1914	板、油彩/額(両面作品)	41.1×34.0 30.6×38.7	購入
岸田劉生	(1891-1929)	水浴童子[習作]	1914	画布、油彩/額	44.7×33.7	購入
岸田劉生	(1891-1929)	エターナル・アイドル	1914	板、油彩/額	40.8×31.8	購入

作品の収集、保存、貸出

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
岸田劉生	(1891-1929)	路傍	1915	板、油彩／額	32.5×23.0	購入
岸田劉生	(1891-1929)	壺	1917	画布、油彩／額	40.9×31.7	購入
岸田劉生	(1891-1929)	壺と林檎と茶碗	1917	画布、油彩／額	34.3×34.3	購入
岸田劉生	(1891-1929)	鶴沼風景	1917-23	画布、油彩／額	44.1×51.5	購入
岸田劉生	(1891-1929)	芝居絵(大安寺堤)	1923	板、油彩／額	24.0×33.0	購入
岸田劉生	(1891-1929)	鎌倉長谷夜景	c. 1923	板、油彩／額	14.6×22.0	購入
岸田劉生	(1891-1929)	舞妓囃(舞妓里代之像)	1926	板、油彩／額	27.0×21.7	購入
岸田劉生	(1891-1929)	静物(果物)	1927	画布、油彩／額	33.4×52.8	購入
岸田劉生	(1891-1929)	静物(ギヤマン皿の静物)	1928	画布、油彩／額	31.0×49.0	購入
岸田劉生	(1891-1929)	大連星ヶ浦風景	1929	画布、油彩／額	60.0×74.0	購入
須田国太郎	(1891-1961)	夏の花	1954	画布、油彩／額	46.0×54.0	島田康寛氏寄贈
野見山暁治	(1920-)	白い花	1966	画布、油彩／額	53.3×111.0	作者寄贈
野見山暁治	(1920-)	なにも言わない	1997	画布、油彩／額	131.0×162.0	作者寄贈

水彩

岸田劉生	(1891-1929)	聖母像	c. 1914	紙、水彩／額	17.1×24.6	寄贈
岸田劉生	(1891-1929)	麗子裸像	1920	紙、水彩／額	50.5×33.6	購入
岸田劉生	(1891-1929)	二人麗子	1921	紙、水彩、コンテ／額	22.7×30.4	購入
岸田劉生	(1891-1929)	二階窓外之景(秋景)	1921	紙、水彩／額	25.5×34.0	購入
岸田劉生	(1891-1929)	自画像	1928	紙、水彩、鉛筆／額	50.2×34.0	購入
岸田劉生	(1891-1929)	麗子提灯を喜ぶ之図	不詳	紙、水彩／額	19.0×21.5	寄贈
ソニア・ドローナー	(1885-1979)	リズム	c. 1915-30	厚みのある白い紙、水彩／額	46.5×30.0	購入
アーシル・ゴーカー	(1904-1948)	パースデイ・グリーティング	1931	紙、水彩、墨、色鉛筆／額	25.3×19.0	購入

素描

甲斐庄楠音	(1894-1978)	裸婦デッサン	不詳	紙、墨、鉛筆、顔料、金属箔(砂子)／額	30.0×35.0	原秋子氏寄贈
岸田劉生	(1891-1929)	天地創造	1914	紙、インク／額	13.9×13.9	寄贈
岸田劉生	(1891-1929)	リーチ氏像(1)	1914	紙、鉛筆、コンテ／額	22.4×14.9	寄贈
岸田劉生	(1891-1929)	リーチ氏像(2)	1914	紙、鉛筆、コンテ／額	22.4×14.9	寄贈
岸田劉生	(1891-1929)	人間創造	c. 1914	紙、鉛筆／額	13.6×17.7	寄贈
岸田劉生	(1891-1929)	永遠の女性(聖母像)	1918	画布、木炭／額	53.1×40.9	購入
岸田劉生	(1891-1929)	手	不詳	紙、インク／額	7.6×10.3	寄贈
森芳雄	(1908-1997)	《石膏のある静物》草稿	不詳	紙、鉛筆／まくり	38.5×27.2	門田正子氏寄贈
森芳雄	(1908-1997)	《石膏のある静物》草稿	不詳	紙、鉛筆／まくり	26.4×19.7	門田正子氏寄贈
森芳雄	(1908-1997)	《石膏のある静物》草稿	不詳	紙、鉛筆／まくり	34.8×25.8	門田正子氏寄贈
森芳雄	(1908-1997)	《石膏のある静物》草稿	不詳	紙、鉛筆／まくり	34.8×25.8	門田正子氏寄贈
森芳雄	(1908-1997)	《石膏のある静物》草稿	不詳	紙、鉛筆／まくり	35.8×25.3	門田正子氏寄贈
森芳雄	(1908-1997)	《石膏のある静物》草稿	不詳	紙、鉛筆／まくり	35.8×25.3	門田正子氏寄贈

版画

岸田劉生	(1891-1929)	リーチ氏像	1914	紙、エッチング／額	12.7×10.7	寄贈
------	-------------	-------	------	-----------	-----------	----

彫刻

岸田劉生	(1891-1929)	手	1918	ブロンズ	20.6×9.7 (h)	寄贈
------	-------------	---	------	------	--------------	----

陶芸

近藤豊	(1932-1983)	白斑点文大鉢	c. 1973	陶器	7.4 (h)×36.5×36.5	大谷桂子氏寄贈
宮下善寿	(1901-1988)	白雪瓷三耳壺	c. 1956	陶器	31.0 (h)×21.5×21.5	宮下英子氏寄贈
宮下善寿	(1901-1988)	告春文花瓶	1958	陶器	33.0 (h)×42.0×42.0	宮下英子氏寄贈

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
宮下善爾	(1939-2012)	緑釉壺	1970	陶器	39.0 (h)×39.0×38.0	宮下英子氏寄贈
宮下善爾	(1939-2012)	彩泥花器	c. 1981	陶器	35.0 (h)×34.8×10.6	宮下英子氏寄贈
宮下善爾	(1939-2012)	方壺 迷宮の森	1983	陶器	21.0 (h)×20.0×20.0	宮下英子氏寄贈
宮下善爾	(1939-2012)	海から空へ	1991	陶器	41.0 (h)×30.0×29.5	宮下英子氏寄贈
宮下善爾	(1939-2012)	黎明	1995	陶器	64.5 (h)×47.0×18.0	大谷桂子氏寄贈
三代宮永東山 (理吉)	(1935-)	記憶の光景	1997	陶器	150.0 (h)×113.0×22.0	購入
三代宮永東山 (理吉)	(1935-)	空架ける光景	1997	陶器	153.0 (h)×94.0×23.0	購入
ニーノ・カルーソ (1928-2017)		抱擁	1957	陶器	6.0 (h)×51.5×51.5	アンドレア・カルーソ氏寄贈
ニーノ・カルーソ (1928-2017)		アーキスカルプチャー (セジェスタ)	1988-91	テラコッタ	193.5 (h)×140.0×54.0	購入
ニーノ・カルーソ (1928-2017)		エルマー両性具有	1993	陶器	168.0 (h)×46.0×28.5／168.0 (h)×47.0×28.0	購入
ニーノ・カルーソ (1928-2017)		黒いヘルマ	1993	陶器	131.0 (h)×40.0×35.0	アンドレア・カルーソ氏寄贈

金工

加藤忠雄	(1939-)	旋律	1976	銅、鍍金	95.0 (h)×35.0×20.0	作者寄贈
加藤忠雄	(1939-)	銀飾筥「南海の譜」	1998	銀、金消、彫金、鍍金	17.0 (h)×28.0×14.0	作者寄贈
加藤忠雄	(1939-)	銀八方花瓶	2000	銀、金線象嵌、彫金、鍍金	27.0 (h)×13.0×13.0	作者寄贈
加藤忠雄	(1939-)	銀打出し香炉「干潟の主」	2005	銀、金消、彫金、打出	11.0 (h)×26.0×12.0	作者寄贈
山本安曇	(1885-1945)	信濃高原の叙情白銅花瓶	1920	白銅、鑄造	32.5 (h)×29.0×29.0	購入
山本安曇	(1885-1945)	金属酒仙	1937	青銅、鑄造	17.0 (h)×25.5×16.5	購入
山本安曇	(1885-1945)	青銅みゝたちの壺	1939	青銅、鑄造	22.0 (h)×25.0×25.0	購入

漆工

伊藤裕司	(1930-)	涛	1997	漆、螺鈿	20.0×41.0×21.0	作者寄贈
伊藤裕司	(1930-)	雪嶺	2010	漆	12.0 (h)×30.0×38.0	作者寄贈
迎田秋悦	(1881-1933)	菊御紋入鉄線蒔絵 手箱	c. 1890-1940	漆、銀、蒔絵	8.0(h)×16.4×19.7	購入
迎田秋悦	(1881-1933)	竹漆絵風炉先屏風	c. 1890-1940	木、紙、漆／二曲一隻屏風	39.3 (h)×191.0×1.6	購入
迎田秋悦	(1881-1933)	色絵蒔絵銘々皿	c. 1890-1940	木、漆、蒔絵	(各)1.6(h)×15.2×15.2(10客)	購入
迎田秋悦	(1881-1933)	山海四季蒔絵重箱	c. 1890-1940	漆、銀、蒔絵	重箱：46.0(h)×25.0×25.0、重台：10.0(h)×31.0×31.0	購入
杉林古香 (図案:浅井忠)	(1881-1913) (1856-1907)	大津絵銘々皿	c. 1890-1912	漆、蒔絵	(各)2.4(h)×15.0×15.0(5客)	購入
杉林古香	(1881-1913)	煙草盆	c. 1897-1906	漆、蒔絵	(各)22.0(h)×25.0×19.0(8客)	購入
二代 鈴木表朔	(1905-1991)	麦塗塗大果盛	c. 1929	木、漆	13.0(h)×48.0×48.0	購入
高橋静堂	(1908-1998)	彫漆花文手箱	1936	漆、彫漆	15.5(h)×28.0×37.0	購入
二十代堆朱楊成	(1880-1952)	稲荷山硯箱	1921	漆、彫漆	6.0(h)×23.6×25.4	購入
吉田醇一郎	(1898-1969)	春秋漆絵屏風	1940	和紙、漆／六曲一双屏風	(各)174.0(h)×345.0	購入

染織

皆川月華	(1892-1987)	染彩繡樹下誕生屏風	1933	綿、染、彩色、刺繡／三曲一隻屏風	183.0 (h)×166.0	購入
------	-------------	-----------	------	------------------	-----------------	----

書

小川東洲	(1928-)	蘆雪	1988	紙、墨／額	67.0×127.0	作者寄贈
------	----------	----	------	-------	------------	------

作家名	生没年	題名	制作年	材質・技法／形状	寸法〔cm〕	購入・寄贈
W. ユージン・スミス (1918-1978)		第二次世界大戦: 空母バンカーヒル	1943	ゼラチン・シルバー・プリント	27.0×34.0	購入(ASC-005/ MPE-2:002)
W. ユージン・スミス (1918-1978)		第二次世界大戦: アメリカ兵に発見された 瀕死の赤ん坊、サイパン	1944	ゼラチン・シルバー・プリント	29.2×25.4	購入(ASC-025/ MPE-2:104)
W. ユージン・スミス (1918-1978)		第二次世界大戦: 上陸開始日、硫黄島	1945	ゼラチン・シルバー・プリント	40.1×28.9	購入(ASC-036/ MPE-2:136)
W. ユージン・スミス (1918-1978)		第二次世界大戦: 無題、沖縄	1945	ゼラチン・シルバー・プリント	22.9×34.2	購入(ASC-046)
W. ユージン・スミス (1918-1978)		第二次世界大戦: 無題、沖縄	1945	ゼラチン・シルバー・プリント	35.1×52.2	購入(ASC-052/ MPE-2:201)
W. ユージン・スミス (1918-1978)		第二次世界大戦: 無題、沖縄	1945	ゼラチン・シルバー・プリント	27.5×35.9	購入(ASC-053/ MPE-2:205)
W. ユージン・スミス (1918-1978)		第二次世界大戦: 無題、沖縄	1945	ゼラチン・シルバー・プリント	27.0×40.2	購入(ASC-054/ MPE-2:203)
W. ユージン・スミス (1918-1978)		第二次世界大戦: 無題、沖縄	1945	ゼラチン・シルバー・プリント	34.2×23.0	購入(ASC-055/ MPE-2:209)
W. ユージン・スミス (1918-1978)		スペインの村: 治安警備隊	1950-51	ゼラチン・シルバー・プリント	32.5×22.2	購入(ASC-078/ MPE-13:005)
W. ユージン・スミス (1918-1978)		スペインの村: デレイトーサ村	1950-51	ゼラチン・シルバー・プリント	34.9×26.0	購入(ASC-079/ MPE-13:007)

資料

岸田劉生	(1891-1929)	茄子之図	1928	絹本着色／軸	34.2×26.4	寄贈
岸田劉生	(1891-1929)	一見四水	不詳	紙本着色／軸	144.4×38.2	寄贈
		『パリ万国博覧会「現代生活における技術と芸術国際博覧会」公式ガイドブック』	1937	書籍(212頁)	21.4×12.5	河本信治氏寄贈

その他

河口龍夫	(1940-)	関係	1970	出品票のコピー4枚	(各)25.8×36.4	購入
河口龍夫	(1940-)	感光	1971	印画紙、自然光	93.5×109.5	購入
毛利悠子	(1980-)	めくる装置、3つのヴェール	2018	チュール、スキャナ、 モニター、サーキュレーター、 モーター、電導糸、 錆びたモーター、ステンレス ／インスタレーション	サイズ可変	購入
リサ・アン・ アワーバック	(1967-)	この織機を持って失せろ	2009	メリノウール、ファイバー グラス製の特注マネキン、 デジタル出力写真	セーター上:53.0 (h)×54.0 セーター下:40.5 (h)×72.0 写真:可変	長谷幹雄氏 寄贈

保存

Conservation

[絵画21点、素描1点、彫刻1点、工芸1点、資料・その他3点]

油彩画4点を修復し、国立美術館巡回展へ出品した。修復が地方における鑑賞機会の拡大につながったことは成果といえる。また、フェリーツェ・“リチ”・上野＝リックスの画卷2点については、修復を完了し令和3年度の企画展に出品可能な状態とした。そのほか、山元春挙《空積帰牛之圖》(1908年)をはじめとする日本画17点についても、所蔵作品展や作家の回顧展での活用を見越して修復を行い、展示に活用可能な状態とした。さらに、彫刻作品である清水九兵衛《Figure》(1986年)についても修復を完了し、将来の回顧展等へ出品が可能となった。

貸出

Loan

[作品貸出 34件221点／34 sets of 221]

兵庫県立美術館「開館50周年 超・名品展」や徳島県立近代美術館開館30周年記念「ドイツ20世紀アート」展、京都市京セラ美術館リニューアル開館記念展「京都の美術 250年の夢 総集編」など、美術館の節目となる重要な展覧会に作品を貸与し、展覧会内容の充実化に寄与した。また、東京国立近代美術館・大阪歴史博物館を巡回する「あやしい絵展」に甲斐庄楠音《横櫛》(1916年頃)をはじめとする21点を貸与した。《横櫛》が展覧会内容を象徴する作品として、ポスターのメインビジュアル等に使用されたことで、展覧会広報に寄与するとともに、作品の認知度の向上にもつながったことは成果といえる。

[特別観覧 79件161点／79 sets of 161]

独立行政法人国立美術館巡回展
Traveling Exhibitions of National Art Museum
Collection Art Works

令和2年度国立美術館巡回展・京都国立近代美術館所蔵品展
みやこ
京の美術——洋画、日本画、工芸
Masterpieces from the National Museum of Modern Art,
Kyoto: Oil Paintings, Japanese-style Paintings and Crafts by
Kyoto Artists

主催：北海道立旭川美術館、京都国立近代美術館
共催：北海道新聞旭川支社
会場：北海道立旭川美術館
会期：2020年7月11日(土)～8月30日(日) (45日間)
入場者数：3,726人(一日平均：83人)

主催：高崎市タワー美術館、京都国立近代美術館
後援：朝日新聞社前橋総局、産経新聞前橋支局、上毛新聞社、
東京新聞前橋支局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、
NHK前橋放送局、群馬テレビ、J:COM群馬、FM GUNMA
会場：高崎市タワー美術館
会期：2020年9月19日(土)～11月8日(日) (43日間)
入場者数：5,655人(一日平均：132人)

カタログ(Exhibition Catalogue)

なし(代わりにリーフレットを作成)
日本語：21.0×14.8cm、6頁
図版 カラー 16点

収録論文等
「作家・作品解説」門間仁史、野本淳
「京都国立近代美術館の概要」

編集／発行：北海道立旭川美術館、高崎市タワー美術館、
京都国立近代美術館
執筆：門間仁史(北海道立旭川美術館)、野本淳(高崎市タワ
ー美術館)
デザイン：磯優子(文編monpaign)
印刷・製本：中西印刷株式会社

普及事業
Public Programs

NFAJ 所蔵作品選集 MoMAK Films
MoMAK Films Screening

主催：京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ
特別協賛：木下グループ
会場：京都国立近代美術館講堂

プログラム：
[ポーランドの映画ポスター展関連特集 ポーランド
で愛された映画たち]
▶令和2年6月27日(土) ①午後2時～3時34分 ②午後4時
～6時3分

上映作品：①『水の中のナイフ [Nóż w wodzie]』1962年
(ポーランド) ②『鉄の男 [Człowiek z żelaza]』1981年(ポー
ランド)
参加人数：36名(①19名 ②17名)

▶令和2年6月28日(日) ①午後2時～3時25分 ②午後4時
～6時32分
上映作品：①『ゴジラ対ヘドラ』1971年(東宝) ②『新幹線大
爆破』1975年(東映東京)
参加人数：33名(①20名 ②13名)

[京のくらし——二十四節気を愉しむ 関連上映 相
米慎二監督特集]
▶令和2年8月29日(土) 午後2時～4時4分
上映作品：『お引越し』1993年(讀賣テレビ放送)
参加人数：23名

▶令和2年8月30日(日) 午後2時～4時20分
上映作品：『魚影の群れ』1983年(松竹)
参加人数：21名

[人間国宝 森口邦彦 友禪／デザイン—交差する自由
へのまなざし 関連上映 映画にみるパリの光と闇]
▶令和2年11月28日(土) 午後2時～3時35分
上映作品：『牝犬』1931年(フランス)
参加人数：16名

▶令和2年11月29日(日) 午後2時～3時24分
上映作品：『別れの曲』1934年(フランス)
参加人数：26名

[ピクチャレスク・ジャパン—世界が見た明治の日本—]
主催：京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ、文化庁、独
立行政法人日本芸術文化振興会
特別協力：英国映画協会(British Film Institute)
▶令和3年 ①2月20日(土) ②2月21日(日) 各日午後2時～
4時20分

第1部：映画上映 午後2時～3時5分(上映後、10分間休憩)
ピアノ伴奏：柳下美恵
第2部：講演(ビデオ上映) 午後3時15分～4時20分
第1部 上映作品：『日本の学童たち [Japanese School
Children]』1904年(英、ヘップワース・マニファクチャリング
社)、

『日本の葬列 [A Japanese Funeral]』1904年(英、ウォーリッ
ク・トレーディング社)、
『日本の祭列 [Japanese Procession of State]』1904年(英、
ヘップワース・マニファクチャリング社)、
『日本の舞踊 [Japanese Dancers]』1905年(英、不明)、
『保津川の急流下り [Shooting the Rapids on the River Ozu
in Japan]』1907年(仏、パテ・フレール社)、
『ピクチャレスク・ジャパン [Picturesque Japan (Japon
Pittoresque / Das Malerische Japan)]』(仏、パテ・フレール
社)、
『日本の祭 横浜開港五十年祭 [Japanese Festival (Grande
Fête du Cinquantenaire de Yokohama)]』1909年(仏、パ
テ・フレール社)、
『日本の稲刈り [Rice Harvest in Japan (La Récolte du Riz
au Japon / Reisernte in Japan / Auf Den Reisfeldern)]』
1910年(仏、パテ・フレール社)、
『京都の祭 [The Rice Festival in Kyoto (La Fête du Riz à
Kyoto, Japon / Reisfest in Kioto)]』1911年(仏、パテ・フレ
ール社)、
『鵜飼 [Fishing with Cormorants. Isle of Yeso. Japan
(Kormorane Beim Fischfang (Insel Yeso Japan))]』1911年
(英、チャールズ・アーバントレーディング社)、
『日本人の中で [Among the Japanese]』1911年(米、シーリ
グ・ポリスコープ社)、
『日本のアイヌ [The Ainu of Japan (Die Ainu, Die Im
Aussterben Begriffene Urbevölkerung Japan's)]』1913年
(米、シーリグ・ポリスコープ社)、
『日本の軽業師 [Japanese Acrobats]』1914年(英、不明)
第2部 上映ビデオ：『ピクチャレスク・ジャパン—映画を通じた
外からのまなざし—』講演者：小松弘(早稲田大学文学学術院
教授)、『『日本の祭り 横浜開港五十年祭』について』講演者：
平野正裕(元横浜開港資料館・横浜市史資料室員)、『『日本
のアイヌ』の映像について』講演者：森岡健治(平取町立二風
谷アイヌ文化博物館長)、『1914年日本の軽業師たち—ヨーロ
ッパで活躍していた日本人軽業師・曲芸師たち群像—』講演
者：大島幹雄(サーカス学会会長)
参加人数：60名(①29名 ②31名)

[中国映画の展開——女性たちの物語]
▶令和3年2月26日(金) 午後2時～3時34分
上映作品：『木蘭従軍』1939年(中国聯合影業公司華成製片廠)
参加人数：23名

▶令和3年2月27日(土) 午後2時～3時38分
上映作品：『祝福』1956年(北京電影製片廠)
参加人数：30名

▶令和3年2月28日(日) 午後2時～3時40分
上映作品：『秋菊の物語』1992年(北京電影学院青年電影製
片廠)
参加人数：26名

講演会、シンポジウム、ギャラリートーク
Lectures, Symposia, Gallery Talks
▶令和2年9月19日(土)午後7時～8時5分 [ライブ配信]
「京のくらし」展関連イベント ギャラリートーク
講師:池田祐子(京都国立近代美術館学芸課長)
撮影場所:京都国立近代美術館3階企画展示室
配信:「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶令和2年10月30日(金)午後3時30分～6時30分
「人間国宝 森口邦彦」展 特別講演会 (THE COMPEきものと帯実行委員会 [京都女子大学])
講師:大長智広(京都国立近代美術館研究員)
会場:京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数:37名(うち引率3名、学生34名)

▶令和2年11月8日(日)午後5時～6時 [ライブ配信]
「人間国宝 森口邦彦」展関連イベント アーティストトーク
講師:森口邦彦
撮影場所:京都国立近代美術館3階企画展示室
配信:「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶令和2年11月15日(日)午後2時～3時30分
「人間国宝 森口邦彦」展記念講演会「フランスに留学して」
講師:森口邦彦
聞き手:池田祐子(京都国立近代美術館学芸課長)
会場:京都国立近代美術館講堂
参加人数:36名

▶令和2年11月16日(月)～[アーカイブ動画]
「分離派建築会100年」展関連トークイベント
OPEN HOUSE OSAKA 2020 × 分離派建築会100年 コラボ企画「大阪の石本喜久治」(10月24日(土)午後5時～6時30分にイケフェス大阪の企画としてライブ配信)
登壇者:菊地潤(建築家、ifaa[建築と美術研究会]会員)、谷口嘉彦、松田修平、杉山浩二(石本建築事務所)、磯達雄(建築ジャーナリスト [モデレーター])
配信:「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶令和2年11月19日(木)午後5時30分～6時 [ライブ配信]
「人間国宝 森口邦彦」展関連イベント アーティストトーク デザイン編
講師:森口邦彦
撮影場所:京都国立近代美術館1階ロビー
配信:「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶令和2年11月20日(金)午後1時30分～2時30分
「人間国宝 森口邦彦」展解説(日本工芸会石川支部)
講師:大長智広(京都国立近代美術館研究員)
会場:京都国立近代美術館3階企画展示室
参加人数:9名
▶令和2年 ①11月22日(日)②11月23日(月・祝)各日午後2時～3時30分
「人間国宝 森口邦彦」展記念講演会「伝統に想うこと」
講師:森口邦彦
聞き手:生田ゆき(文化庁文化財調査官)
会場:京都国立近代美術館講堂
参加人数:80名(①41名 ②39名)

▶令和2年11月27日(金)午後4時～6時
「人間国宝 森口邦彦」展 特別講演会 (THE COMPEきものと帯実行委員会)
講師:大長智広(京都国立近代美術館研究員)
会場:京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室
参加人数:28名

▶令和3年1月9日(土)午後2時～4時30分 [ライブ配信]
「分離派建築会100年」展関連イベント
過渡期の時代を考えるシンポジウム「分離派建築会 ― モダニズム建築への道程」
登壇者:田路貴浩(京都大学教授)、足立裕司(神戸大学名誉教授)、加藤耕一(東京大学教授)、梅宮弘光(神戸大学教授)
進行:本橋仁(京都国立近代美術館特定研究員)
会場:京都国立近代美術館講堂
会場参加人数:23名
配信:「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶令和3年1月16日(土)午後2時～4時 [ライブ配信]
「分離派建築会100年」展関連イベント
ことばの後ろに回り込む
講演会「(ことば)をもった大正時代の建築家たち」
講師:本橋仁(京都国立近代美術館特定研究員)
会場:京都国立近代美術館講堂
会場参加人数:17名
配信:「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

▶令和3年1月18日(月)午後3時～4時 [ライブ配信]
「分離派建築会100年」展関連イベント ギャラリートーク 会場デザイン編
講師:木村吉成・松本尚子(木村松本建築設計事務所)、西村祐一(Rimishuna)、本橋仁(京都国立近代美術館特定研究員)
撮影場所:京都国立近代美術館3階企画展示室
配信:「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶令和3年1月18日(月)午後4時30分～5時30分 [ライブ配信]
「分離派建築会100年」展関連イベント ギャラリートーク 図録編
講師:本橋仁(京都国立近代美術館特定研究員)
配信:「京都国立近代美術館」公式Instagram

映像上映 Video Screening

▶令和2年 ①10月2日(金)正午～午後8時 ②10月3日(土)午前9時30分～午後5時
文化庁令和2年度戦略的芸術文化創造推進事業「JAPAN LIVE YELL project」委託事業
「ニュー・ブランシュ KYOTO 2020」
ル・フレノワによるセレクション「監視とネットワークー共鳴し合う2作品」
上映作品:『死んだ時間 [temps mort]』2009年『スワッティド [Swatted]』2018年(ル・フレノワ国立現代アートスタジオ)
キュレーター:パスカル・プロニエ
会場:京都国立近代美術館講堂
参加人数:105名(①16名 ②89名)
主催:アンスティチュ・フランセ関西、京都国立近代美術館
プロデュース/コーディネーション:MUZ ART PRODUCE

学習支援事業 Learning Programs

ワークショップ Workshops

▶令和2年3月17日(火)～6月14日(日)[オンライン]
「チェコ・デザイン」展 臨時休館プレゼント企画「おもちゃたちの「声」大募集!」
配信:「京都国立近代美術館」公式facebook

▶令和2年7月21日(火)～9月22日(火・祝)[オンライン]
「京のくらし」展パブリックプログラム「つくってあそぼ!京近美かるた」
公開:京都国立近代美術館公式ウェブサイト

▶令和2年8月12日(水)～9月22日(火・祝)
「京のくらし」展パブリックプログラム「かるたの読み札、大募集!!」
配信:「京都国立近代美術館」公式facebook
成果展示:京都国立近代美術館4階ロビー

▶令和2年8月20日(木)～9月22日(火・祝)[オンライン]
「京のくらし」展パブリックプログラム「#二十四節気をあじわう四季を感じた投稿大募集!」
配信:「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶令和3年1月6日(水)～3月7日(日)[展示]
「分離派建築会100年」展関連プログラム「新春〈我々は起つ〉―書き初め携えいざ美術館へ」
習字指導:西垣一川(書道家、五行歌 歌人)
撮影編集:岸本康(Ufer! Art Documentary)
ナビゲーター:本橋仁、土山里子(京都国立近代美術館特定研究員)
配信:「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル
成果展示:京都国立近代美術館1階ロビー

▶令和3年2月22日(月)～3月20日(土)[オンライン]
「ピピロッチェ・リスト」展関連プログラム「《イノセント・コレクション》のための廃材、大募集!!」(1分2秒)
配信:「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

鑑賞プログラム Appreciation Program

▶令和2年4月8日(水)～[ライブ配信]
「チェコ・デザイン 100年の旅」展関連企画
「子どもの目でみた展覧会 チェコ・デザイン 100年の旅」(14分17秒)
案内:本橋仁(京都国立近代美術館特定研究員)
参加者:りこさん(小学校6年生)とご両親
撮影場所:京都国立近代美術館3階企画展示室
配信:「京都国立近代美術館」公式YouTubeチャンネル

プリントスタディ
Print Studies
▶令和2年11月21日(土)午前10時～午後3時
京都芸術大学通信教育部美術科写真コース 写真作品鑑賞授業
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：18名(引率3名、学生15名)
共催：京都芸術大学

▶令和2年12月5日(土)午前10時～正午
京都芸術大学通信教育部美術科写真コース 写真作品鑑賞授業
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：15名(引率2名、学生13名)
共催：京都芸術大学

学校連携 School Programs

▶令和2年9月29日(火)～[オンライン]
令和2年度図画工作科・美術科夏季連携講座
「鑑賞の扉を開けよう!」対話による鑑賞編(10分10秒)
「鑑賞の扉を開けよう!」テーマ別鑑賞編(8分10秒)
「鑑賞の扉を開けよう!」アートカード編(7分24秒)
制作：京都国立近代美術館、京都市教育委員会、京都市立中学校教育研究会美術部会、京都市図画工作教育研究会
撮影・編集：守屋友樹
撮影場所：京都国立近代美術館
配信：「京都国立近代美術館」公式ウェブサイト・YouTube

▶令和2年11月25日(水)午後1時15分～2時
同志社女子大学「博物館教育論」
「京都国立近代美術館の教育普及活動—美術館の可能性をもとに模索する—」
講師：松山沙樹(京都国立近代美術館特定研究員)
参加人数：8名(引率1名、学生7名)
共催：同志社女子大学

感覚をひらく —新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 Opening the Senses Project to Promote Innovative Art Appreciation Programs

主催：新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会(事業実施中核館・京都国立近代美術館)
助成：令和2年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業

▶令和2年12月24日(木)～令和3年3月7日(日)[展示]
展示「エデュケーショナル・スタディズ02「中村裕太 ツボノ_ナカ_ハ_ナンダロナ?」
(エデュケーショナル・スタディズの頁を参照)

▶令和2年12月24日(木)～[オンライン]

「ABCコレクション・データベースVol.1 石黒宗麿陶片集」
テキスト：中村裕太(アーティスト)、松山沙樹、本橋仁(京都国立近代美術館)
触察：安原理恵
ウェブサイト制作：Studio Kentaro Nakamura
写真撮影：表恒匡
映像制作：ViDeOM
公開：ABCプロジェクトウェブサイト

▶令和3年1月27日(水)午後5時～6時15分[ライブ配信]
「エデュケーショナル・スタディズ02「中村裕太 ツボノ_ナカ_ハ_ナンダロナ?」トークイベント 会場編
出演：中村裕太(アーティスト)、仲村健太郎(Studio Kentaro Nakamura)、松山沙樹(京都国立近代美術館特定研究員)
撮影場所：京都国立近代美術館4階コレクション・ギャラリー
配信：「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶令和3年2月16日(火)午後5時～6時[ライブ配信]
「ABCコレクション・データベースVol.1 石黒宗麿陶片集」トークイベント ウェブサイト編
出演：中村裕太(アーティスト)、仲村健太郎、小林加代子(Studio Kentaro Nakamura)、松山沙樹(京都国立近代美術館特定研究員)
配信：「京都国立近代美術館」公式Instagram

▶令和3年3月15日(月)午前9時40分～午後0時10分[オンライン]
美術館と盲学校との連携による授業「石をつくろう! 建築における材料の表現・石の表現」
講師：山田宮土理(早稲田大学)、中村航(奈良女子大学)、本橋仁(京都国立近代美術館)
スタッフ：松山沙樹、吉澤あき(京都国立近代美術館)、田渕茂彦、藤田真澄、ほか教員5名(京都府立盲学校)
配信：Zoom
参加人数：生徒4名(4名とも弱視)、教員7名
共催：京都府立盲学校
レプリカ製作 助成：一般財団法人デジタル文化財創出機構

▶令和3年3月28日(日)①午前10時30分～正午 ②午後2時30分～4時
「ピピロッチィ・リスト」展開連プログラム 障害のある子どものためのワークショップ「廃材がアートに変身!?ふれて、みて、かんにて ピピロッチィ・リストの世界」
ナビゲーター：牧口千夏、松山沙樹(京都国立近代美術館)
会場：京都国立近代美術館講堂、3階企画展示室、1階ロビー
参加人数：合計2組6名

「CONNECT⇄」 ～芸術・身体・デザインをひらく～

文化庁委託事業「令和2年度障害者による文化芸術活動推進事業」
主催：文化庁、京都国立近代美術館
共催：京都新聞
後援：京都府、京都市、京都岡崎魅力づくり推進協議会、KBS京都、エフエム京都
特別協力：NHK京都放送局

▶令和2年12月3日(木)～20日(日)[オンライン]
CONNECT⇄ スペシャル鼎談「〈共生〉の時代における文化施設のあり方について」
出演：鷲田清一(哲学者)、青木淳(京都市京セラ美術館館長)、柳原正樹(京都国立近代美術館長)
映像監督：山城大督
撮影：片山達貴
協力：京都市京セラ美術館
企画：文化庁、京都国立近代美術館
撮影場所：京都市京セラ美術館本館1階中央ホール
配信：CONNECT⇄ 公式YouTubeチャンネル

▶令和2年12月3日(火)～[オンライン]
身体感覚で楽しむプログラム「八角巡礼—夢の領土」(28分20秒)
企画・制作：大崎晴地(アーティスト)、京都国立近代美術館
テキスト：大崎晴地
組版設計：見増勇介(um design)
映像編集：片山達貴
音楽：灰街令
調査協力：菊地暁(京都大学人文科学研究所)
配信：CONNECT⇄ 公式YouTubeチャンネル

▶令和2年12月3日(木)～20日(日)[展示][オンライン]
身体感覚で楽しむプログラム「KYOTO AQUATOPE」
サウンドワーク：上村洋一(サウンドアーティスト)
協力：平安神宮、京都市動物園、並河靖之七宝記念館、無鄰菴、恵谷浩子(奈良文化財研究所)
企画：京都国立近代美術館
会場：京都国立近代美術館1階ショップ、ロームシアター京都パークプラザ3階共通ロビー、京都市京セラ美術館2階
配信：KYOTO AQUATOPE特設ウェブサイト

▶令和2年12月3日(木)～20日(日)[オンライン]
「京都岡崎・トコトコ・どんなトコ?」
①「知る人ぞ知る!京都岡崎公園の魅力 手話と文字を使って、スタッフとめぐる案内動画」(①京都府立図書館、②京都国立近代美術館、③京都市京セラ美術館)
企画：文化庁、京都国立近代美術館
制作：手話マップ
協力：藤井容子
配信：CONNECT⇄ 公式YouTubeチャンネル
②「音でたのしむコンテンツ〈視る。を聞く。〉」
企画：京都国立近代美術館
配信：CONNECT⇄ 特設ウェブサイト

▶令和2年12月8日(火)～20日(日)[展示]
京都国立近代美術館「感覚をひらく」より「さわるコレクション・かたるコレクション」
企画：京都国立近代美術館
会場：京都国立近代美術館1階ロビー

▶令和2年12月8日(木)～令和3年1月24日(日)[展示]
身体感覚で楽しむプログラム「ねじれの巡礼」
企画・制作：大崎晴地(アーティスト)、京都国立近代美術館
会場：京都国立近代美術館1階ロビー

▶令和2年12月12日(土)午後1時～4時[オンライン]
ワークショップ「音景クルーズ」for CONNECT⇄

企画協力：山口情報芸術センター[YCAM]、細井美裕(アーティスト)
企画：京都国立近代美術館
配信：Zoom

▶令和2年12月18日(金)午後2時～3時30分[ライブ配信]
オンラインシンポジウム「文化施設へのアクセシビリティを考える」
講師：ジュリア・カセム(京都工芸繊維大学KYOTO Design Lab特命教授)、広瀬浩二郎(国立民族学博物館准教授)、岸本匡史(公益財団法人としま未来文化財団)
司会：松山沙樹(京都国立近代美術館特定研究員)
企画：文化庁、京都国立近代美術館
配信：CONNECT⇄ 公式YouTubeチャンネル

出版事業 Publications

展覧会図録(各展覧会の頁を参照) Exhibition Catalogues

『視る(京都国立近代美術館ニュース)』(隔月発行) Bimonthly Museum Newsletter “MIRU”

- ▶No. 508(5-6月号)
 - ・ESSAY「コロナ禍休館中のミュージアムについての対話」／春口滉平(編集者、山をおりる)
 - ・REVIEW「キュレトリアル・スタディズ13 チェコ・ブックデザインの実験場 1920s-1930s —大阪中之島美術館のコレクションより」／大平陽一(天理大学教授)
 - ・リレーコラム「刀を見つめ、時の流れを思う」／築山桂(小説家)

- ▶No. 509(7-8月号)
 - ・ESSAY「近現代・京都人のこころ・精神—自然観・美意識をめぐって」／冷泉為人(日本美術史家、冷泉家第25代当主)
 - ・REVIEW「光る貌—京都 東松照明のカラー写真」／林田新(京都芸術大学准教授)
 - ・リレーコラム「アメリカ映画のなかのソシ」／山口美知代(京都府立大学文学部欧米言語文化学科教授)

- ▶No. 510(9-10月号)
 - ・ESSAY「裏返された便箋」／生田ゆき(文化庁文化財調査官)
 - ・REVIEW「季節の感覚、時候の風物に誘発された創意の精華」／太田垣實(美術批評家)
 - ・リレーコラム「なら国際映画祭2020」／中野聖子(特定非営利活動法人なら国際映画祭理事長)

- ▶No. 511(11-12月号)
 - ・ESSAY「須田国太郎の作風と福田平八郎の作風」／原田平作(大阪大学名誉教授、きょうと視覚文化振興財団理事長)
 - ・REVIEW「須田国太郎先生の裸婦像と日記から」／奥田素子(元清荒神清澄寺 鉄斎美術館学芸員)
 - ・リレーコラム「麗しき観音の1300年 そして未来へ ～大和・桜井・聖林寺～」／倉本明佳(聖林寺住職)

- ▶No.512(1-2月号)
 - ・ESSAY「コネテ__イ__カットな身振り」／高橋悟(アーティスト、京都市立芸術大学教授)
 - ・REVIEW「感想(人間国宝 森口邦彦 友禪)／デザイナー—交差する自由へのまなざし」鑑賞」／切畑健(京都国立博物館名誉館員)
 - ・リレーコラム「華の道に教育を視る」／天根俊治(奈良芸術短期大学副学長)

- ▶No.513(3-4月号)
 - ・ESSAY「緊急ではないけれど、必要なこと—「分離派建築

会100年 建築は芸術か?」をめぐって」／岡山理香(建築史家、東京都市大学教授)
・ESSAY「ガイスト・スピーレン—都市の分光 分離派建築会100年に寄せて」／扉野良人(真宗大谷派徳正寺住職、文筆家)

『京都国立近代美術館活動報告』(年1回発行) “MoMAK Report”

- ▶平成29(2017)年度／平成30(2018)年度版

『京都国立近代美術館概要』(年1回発行) Annual Museum Brochure “Independent Administrative Institution National Museum of Art, The National Museum of Modern Art, Kyoto”

- ▶令和2(2020)年度版

『新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 実施報告書』 (年1回発行)

Annual Report “Project to Promote Innovative Art Appreciation Programs”

- ▶令和2(2020)年度版

その他の事業 Others

京都国立近代美術館 友の会 The Membership of MoMAK

近現代美術に関心を持つ人々の鑑賞や研究の便宜を図り、また当館の多彩な活動をサポートしていただく目的で、平成15年度に「京都国立近代美術館 友の会」を発足させた。令和3年4月1日からのOKパスポート販売に先立ち、令和3年3月をもって一般会員の新規入会及び更新受付を終了した。※OKパスポートは国立国際美術館と共同で発行する年間パスポート。

会員数 The Number of Members

令和2年度末の時点で、会員数は557人(内訳：一般会員524人(うち学生15人)、特別会員18人、団体会員1件)。

特別解説会 Gallery Talks for MoMAK Membership

- ▶令和2年8月28日(金)午後6時～7時
解説：池田祐子(京都国立近代美術館学芸課長)
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：14名

- ▶令和2年11月14日(土)午後6時～7時
解説：大長智広(京都国立近代美術館研究員)
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：16名

- ▶令和3年2月19日(金)午後6時～7時
解説：本橋仁(京都国立近代美術館特定研究員)
会場：京都国立近代美術館講堂
参加人数：10名

無料観覧日 Free Admission Days (Collection Gallery Exhibition only)

企画展を実施していない土曜日などについて、コレクション・ギャラリーの無料観覧を実施。

令和2年9月26日(土) 入館者数：164人
令和2年10月3日(土) 入館者数：222人
令和2年10月10日(土) 入館者数：152人
令和2年11月3日(日・文化の日) 入館者数：312人
令和2年11月14日(土・関西文化の日) 夜間開館
入館者数：573人
令和2年11月15日(日・関西文化の日) 入館者数：602人
令和2年12月12日(土) 夜間開館 入館者数：154人
令和2年12月19日(土) 夜間開館 入館者数：157人
令和2年12月26日(土) 夜間開館 入館者数：154人
令和3年3月27日(土) 夜間開館 入館者数：200人

夜間開館 Evening Hours

新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡散防止のため、令和2年5月26日(火)～7月19日(日)と令和3年1月16日(土)～3月7日(日)まで夜間開館を休止。令和2年7月22日(水)～10月4日(日)の金曜日と8月16日(日)、並びに10月8日(木)～令和3年1月15日(金)の金・土曜日の開館時間を午後8時まで延長(ただし、10月10日(土)を除く)。あわせて、コレクション展、自主企画展において延長時間(午後5時以降)については観覧料の夜間割引を実施。

令和2年7月24日(金)～令和3年3月27日(土)：計40日間
入館者数：15,710人(夜間入館者：2,238人)

- ▶コレクション・ギャラリー及び企画展における展示目録の作成・頒布(日・英)
- ▶コレクション・ギャラリー及び企画展における音声ガイドの提供(日・英)
- ▶展覧会案内カレンダーの作成・頒布(日・英)
- ▶MoMAK Films案内カレンダーの作成・頒布
- ▶京都国立近代美術館フロアガイド各国語版の頒布(日・英・独・仏・伊・西・簡体中文・繁体中文・韓)の頒布
- ▶鑑賞の手引書「ガイドブック」の頒布
- ▶京都国立近代美術館 点字・拡大文字パンフレットの作成・頒布
- ▶京都国立近代美術館公式ウェブサイト(日・英・簡体中文・韓)およびSNS(facebook、Instagram)による広報やギャラリートークの配信を実施
- ▶YouTube公式チャンネルにて、展覧会内容と関連イベントの紹介、講演会や教育普及事業をオンラインで実施
- ▶「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」の特設ページによる広報(文字サイズの拡大・白黒反転)
- ▶「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」事業紹介リーフレットの頒布(日・英)
- ▶京都国立博物館、京都市京セラ美術館、京都府京都文化博物館と共同して、年間展覧会案内「京都ミュージアムズ・フォー」を配布し、展覧会案内を利用したスタンプラリーを実施

柳原正樹

[論文等]

- ▶「コロナと美術力」『新美術新聞』No.1539、美術年鑑社、2020年6月21日、2頁
- ▶「芸術が活性化への起爆剤」『京都新聞 京都のメディアがつなぐ「未来のコンパスProject」 「新たな可能性」特集』、京都新聞社、2020年8月2日、6頁
- ▶「講評」『第22回雪梁舎フィレンツェ賞展』図録、雪梁舎美術館、2020年8月8日
- ▶「展覧会によせて—老当益壯の美—今井政之卒寿展」『新美術新聞』No.1547、美術年鑑社、2020年9月21日、1頁
- ▶「停止した美術界」『新美術新聞』No.1547、美術年鑑社、2020年9月21日、2頁
- ▶「丑年に想うこと」『富山県民会館文化友の会会報誌「ぶんか」』2021年1月号第621号、富山県民会館文化友の会、2020年12月27日、1頁
- ▶「創立75周年記念展によせて」『創立75周年記念京都工芸美術作家協会展—煌・KIRAMEKI—』図録巻頭メッセージ、京都工芸美術作家協会、2021年1月15日、6頁
- ▶「凍てつく絵画」『新美術新聞』No.1560、美術年鑑社、2021年2月21日、2頁
- ▶「人物登場」『一般社団法人富山県芸術文化協会広報誌「藝文とやま」』49号、一般社団法人富山県芸術文化協会、2021年3月、60頁

[口頭発表等]

- ▶「これからの博物館に求められる姿」『令和2年度博物館長研修基調講演』、2020年9月30日(主催:文化庁、国立教育政策研究所(社会教育実践研究センター)、会場:国立教育政策研究所社会教育実践研究センター3階講堂)
- ▶『CONNECT⇔ スペシャル鼎談』「共生」の時代における文化施設のあり方について(共同発表者:鷲田清一(哲学者)、青木淳(京都市京セラ美術館館長))、主催:文化庁、京都国立近代美術館、共催:京都新聞、会場:京都市京セラ美術館中央ホール、https://connect-art.jp/2021program01/(「CONNECT⇔ 芸術・身体・デザインをひらく」(「文化庁令和2年度障害者による文化芸術活動支援事業」委託事業)webサイトで2020年12月3日~20日公開、再生回数449回)(最終閲覧日:2021年5月21日)

[受賞]

- ▶令和2年度北日本新聞文化賞

池田祐子

[論文等]

- ▶「京都国立近代美術館コレクションにみる二十四節気」京都国立近代美術館+笈菜奈子(編・著)『京の暮らし—二十四節気を愉しむ』青幻舎、2020年7月、208-211頁
- ▶「京都国立近代美術館のコレクション—三つの特徴と活動指針」『須田記念 視覚の現場』第3号、一般財団法人きょうと視覚文化振興財団、2020年8月、48-51頁
- ▶「森口邦彦のフランス時代—友禪・着物に見出した可能性をめぐって」『人間国宝 森口邦彦 友禪/デザイン 交差する自由へのまなざし』展図録、京都国立近代美術館、2020年10月、442-453頁
- ▶「分離派の誕生—ミュンヘン、ベルリンそしてウィーン」田路貴浩編『分離派建築会—日本のモダニズム建築誕生』京都大学学術出版会、2020年10月、2-16頁

- ▶「ユージェントシュティール」「ウィーン工房」「ドイツ工作連盟」石田勇治編集代表『ドイツ文化事典』丸善出版、2020年10月、462-463/468-471頁
- ▶「上野リチ・リックス」『CONFORT 建築とテキスタイル 特集:もっとテキスタイル』No. 176、2020年12月号、54-55頁
- ▶„Das Kunstgewerbemuseum Berlin und Japan im Kontext der Gründung des Museums für Ostasiatische Kunst Berlin“, in: Yuko Nakama (hrsg.), *Aufbruch der deutschen Moderne und die Kunst in Berlin*, Vorträge beim Internationalen Symposium am 25. 05. 2019 an der Ritsumeikan Universität, Kyoto, Internationales Institut für Sprach- und Kulturstudien, Ritsumeikan Universität, Kyoto, March, 2021, p. 85-99.

[口頭発表等]

- ▶講演会「京の暮らし—二十四節気を愉しむ」展について」『もっと知りたい!関西のミュージアム』、主催:京都新聞COM・佛教大学四条センター、オンライン開催、2020年9月3日
- ▶[聞き手] 森口邦彦展記念講演会「フランスに留学して」、主催:京都国立近代美術館、会場:京都国立近代美術館1階講堂、2020年11月15日
- ▶[座長] ジャポニスム学会40周年記念フォーラム「ジャポニスム研究の可能性—歴史と現在」第2部第4セッション「ジャポニスム研究のこれからと可能性」、主催:ジャポニスム学会、助成:公益財団法人石橋財団、オンライン開催、2021年2月21日

梶岡秀一

[論文等]

- ▶「新収蔵品紹介 石井柏亭筆《画室》1930年(昭和5)」『京都国立近代美術館ニュース視る』507号、京都国立近代美術館、2020年9月30日、5-6頁
- ▶作家解説、主旨解説、『キュレトリアルスタディズ14 須田国太郎 写実と真理の思索』冊子、京都国立近代美術館、2020年10月8日

牧口千夏

[論文等]

- ▶(共著:松山沙樹、本橋仁、牧口千夏、吉澤あき)『感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 令和2年度実施報告書』(令和2年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業)、新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会(実施中核館:京都国立近代美術館)、2021年3月31日

[助成]

- ▶科学研究費補助金(基盤研究(C))「ポスト身体社会」における芸術・文化経験の皮膚感覚についての横断的研究(平成31年度~令和3年度:研究代表者・京都工芸繊維大学 教授 平芳幸浩)

[受賞]

- ▶第15回西洋美術振興財団学術賞:「ドレス・コード?—着る人たちのゲーム」(共同受賞者:石関亮、小形道正)

大長智広

[論文等]

- ▶「大石早矢香展によせて」『大石早矢香』展カタログ、京都高島屋、2020年6月24日
- ▶「八木一舛自筆ノートについて」花里麻理・大長智広・高田瑠美・島崎慶子『八木家所蔵八木一舛関連資料調査報告書』、ニューカラー印刷株式会社、2020年9月、49-51頁
- ▶「森口邦彦——友禪を継ぐ、そして自由へ」、章解説『人間国宝 森口邦彦 友禪／デザイン—交差する自由へのまなざし』展図録、京都国立近代美術館、2020年10月、394-403頁、18頁、326頁、348頁、368頁
- ▶「新収蔵品紹介 加藤土師萌《萌黄金襷手菊文蓋付大節壺》1968年（昭和43）」『京都国立近代美術館ニュース視る』507号、京都国立近代美術館、2020年9月30日、6-7頁
- ▶「アートダイアリー073 人間国宝 森口邦彦 友禪／デザイン 交差する自由へのまなざし」『文化庁広報誌 ぶんかる』(文化庁web)、文化庁 2020年11月
- ▶「触知の世界へ 新宮さやかの現在」『新宮さやか展』DM、目黒陶芸館、2020年12月
- ▶「植葉香澄展によせて」『植葉香澄 ZEPHYR展』DM、アート・フロント・ギャラリー 2021年1月
- ▶「2015年「鯉江良二展—土に還る それ以前・それ以後—」／同時開催「常滑—古常滑、急須、陶彫—」を振り返って」『芸術批評誌リア』No.46、リア制作室、2021年3月、45-59頁

[口頭発表等]

- ▶特別講義「装飾とデザイン」、名古屋芸術大学、2020年6月26日
- ▶京都新聞総合研究所提携講座「もっと知りたい!関西のミュージアム 森口邦彦展」、主催・会場:佛教大学、2020年11月16日

平井啓修

[論文等]

- ▶『毎日新聞』(夕刊) 展覧会レビュー
 - ◎〈番外編〉京都国立近代美術館所蔵品から 「孔雀図刺繍屏風」、2020年5月27日付
 - ◎「開館60周年記念名品展Ⅰ モネからはじまる住友洋画物語」泉屋博古館(会期:2020/3/14-7/12)、2020年6月24日付
 - ◎「特別展「京都摺物集成—江戸時代の京のにぎわい—」京都市歴史資料館(会期:2020/5/18-8/2)、2020年7月22日付
 - ◎「西宮市大谷記念美術館の〈展覧会とコレクション〉2 ひろがる美術館ヒストリー」西宮市大谷記念美術館(会期:2020/7/18-9/28)、2020年8月19日付
 - ◎「高島屋史料館リニューアルオープン記念展第2弾 美をあきなう 第1部」高島屋史料館(会期:2020/9/1-10/26)、2020年9月16日付
 - ◎「奇才—江戸絵画の冒険者たち—あべのハルカス美術館(会期:2020/9/12-11/8)、2020年10月14日付
 - ◎「京都の美術 250年の夢」京都市京セラ美術館(会期:2020/10/10-12/6)、2020年11月11日付
 - ◎「細見コレクション—琳派と若冲—」細見美術館(会期:2020/9/12-12/20)、2020年12月9日付

- ◎「開館20周年記念展示 村田理如 蒐集の軌跡Ⅰ」清水三年坂美術館(会期:2020/11/21-2021/2/7)、2021年1月13日付
- ◎「憧れのヨーロッパ旅行」京都府立堂本印象美術館(会期:2020/11/28-2021/3/28)、2021年2月10日付
- ◎「至高の小磯良平 大野コレクションのすべて」神戸市立小磯記念美術館(会期:2020/12/24-2021/3/21)、2021年3月10日付
- ◎「絹谷幸二の思想と作品」『毎日新聞』(夕刊)2021年3月17日付
- ▶「茶席でよく見る 絵掛物の画家」『淡交テキスト「絵の掛物」』淡交社
 - ◎1月号「知っておきたい狩野派のキホン」および「筆者解説」、2021年1月1日
 - ◎2月号「知っておきたい土佐派・住吉派のキホン」および「筆者解説」、2021年2月1日
 - ◎3月号「知っておきたい琳派のキホン」および「筆者解説」、2021年3月1日

松山沙樹

[論文等]

- ▶「色からふくらむ豊かなイメージ～京都国立近代美術館のキッズ・プログラム～」『色彩教育』Vol. 38 No.1, 2合併号2019、2020年4月30日
- ▶「新しい世界にふれる鑑賞プログラム 京都国立近代美術館「感覚をひらく」事業から」、『ZENBI 全国美術館会議機関誌』vol.18、2020年9月1日
- ▶(共著:松山沙樹、本橋仁、牧口千夏、吉澤あき)『感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 令和2年度実施報告書』(令和2年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業)、新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会(実施中核館:京都国立近代美術館)、2021年3月31日

[助成]

- ▶令和2年度文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」(実施中核館:京都国立近代美術館)

本橋仁

[論文等]

- ▶「日本の住空間における儀式性 建築のエクスタシーを生み出す儀式と住空間の関係について」(共同執筆:福島加津也、富永祥子、菊地暁、金田雄太、佐脇礼二郎)『住総研究論文集・実践研究報告集』、46号、97-108頁、2020年
- ▶「連帯の喧伝へのカウンターパンチ」『住宅建築』建築資料研究社、2020年6月号
- ▶「プロモーションからステートメントへ 近代における家具の「選択」可能性の発生と展示手法の関係について」『家具道具室内史』12号、家具道具室内史学会、2020年7月31日、15-33頁
- ▶「うつらうつらする技術 20年代ドイツと70年代日本を俯瞰する」企画・編集:福島加津也、富永祥子、本橋仁、佐脇礼二郎『Holz Bau ホルツ・パウ 近代初期ドイツ木造建築』、2020年8月、298-309頁
- ▶「建築の残欠——大正から現代、分離派建築会が生きた証を展示する」、章解説(一部)、作品解説(一部)、トピック

(一部)『分離派建築会100年 建築は芸術か?』展図録、朝日新聞社、2020年10月

- ▶「自由無礙なる様式の発見——板垣鷹穂・堀口捨己・西川一草亭」田路貴浩編『分離派建築会——日本のモダニズム建築誕生』京都大学学術出版会、2020年10月、541-558頁
- ▶「建築設計事務所になった コンクリートブロックの家」『TOTO通信』2020年、10月号
- ▶(共著:松山沙樹、本橋仁、牧口千夏、吉澤あき)『感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 令和2年度実施報告書』(令和2年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業)、新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業実行委員会(実施中核館:京都国立近代美術館)、2021年3月31日

[口頭発表等]

- ▶「建築学会の使い方(学つか) シンポジウム in 京都」主催:日本建築学会 企画運営委員会 若手教育タスクフォース、会場:京都大学清風荘、2020年10月30日
- ▶「巨大は細部が宿すか? 菊竹清訓の建築を、架構と加工の点から考える」主催:島根県立美術館、オンラインパネルディスカッション、2021年2月21日

[助成]

- ▶科学研究費補助金(若手研究)「郷土資料館のたてられた時代の再検証—建築はどのように集められ・展示されてきたか—」(平成31年度～令和2年度:研究代表者・本橋仁)

独立行政法人国立美術館 京都国立近代美術館評議員（50音順） 令和2年度
The Board of Trustees

現職	氏名
京都市京セラ美術館長	青木淳
京都市立芸術大学理事長・学長	赤松玉女
国際日本文化研究センター所長	井上章一
東京藝術大学理事	国谷裕子
京都国立博物館長	佐々木丞平
美術評論家／美術史家	島田康寛
京都中央信用金庫理事長	白波瀬誠
日本画家	箱崎睦昌
京都市副市長	村上圭子
重要無形文化財保持者(木工芸)日本工芸会正会員	村山明
京都工芸繊維大学長	森迫清貴
美術家	森村泰昌
京都芸術大学教授	八幡はるみ
京都府副知事	山内修一
公益財団法人京都文化財団理事長／京都府京都文化博物館長	山田啓二

独立行政法人国立美術館 京都国立近代美術館職員 令和3年3月31日現在
Museum Staff

現職	氏名
館長	柳原正樹
総務課長	中尾敏明
運営管理室長、総務・事業係長	西田恭子
総務係員	高原佑太（～令和2年12月末）
事務補佐員	村田麻希子（～令和2年10月末）
〃	中川剛
〃	磯野由花
〃	徳永千鶴（令和2年11月～）
事業主任	米田翔
事業係員	松本大河
特定研究員	土山里子
会計係長	柴田雅文
会計主任	岡本裕子
会計係員	西岡大輝
会計係員	荒牧真史（令和3年1月～）
事務補佐員	林順子
派遣職員	北林滋
学芸課長	池田祐子
主任研究員(所蔵品管理第二室長／展示調整室長)	小倉実子
主任研究員(所蔵品管理第一室長／情報資料室長)	梶岡秀一
主任研究員(教育普及室長)	牧口千夏
主任研究員	平井啓修
研究員	大長智広
特定研究員	松山沙樹
〃	本橋仁
特任研究員	松原龍一（～令和2年10月末）
研究補佐員	邑林由起英
〃	渡邊くらら
〃	高見澤なごみ
〃	松本圭子
〃	福家梨紗
情報研究補佐員	片山静
事務補佐員	吉澤あき

京都国立近代美術館 活動報告
令和2年度

令和4年3月14日 印刷
令和4年3月28日 発行

発行者 福永治
発行所 京都国立近代美術館
京都市左京区岡崎円勝寺町
電話：代表 (075) 761-4111
印刷所 和光印刷株式会社
電話：(075) 441-5408

[非売品]
ISSN 2185-1859

MoMAK Report 2020
The National Museum of Modern Art, Kyoto

Published by The National Museum of Modern Art, Kyoto
Printed by Wako Printing Co., LTD.
© 2021 The National Museum of Modern Art, Kyoto

[not for sale]
ISSN 2185-1859

The National Museum of Modern Art, Kyoto